LA SEMANTO

種蒔く人

大正十年十二月一日（第三種郵便物認可）
大正十二年六月二十八日印刷納本
大正十二年七月一日發行（毎月一回一日發行）

5861
2144
no. 22

行動と批判

第三年第五巻第一號

メーデーの印象

ブルジョア教化

反軍國主義

無産青年運動

文藝時評

戯曲 雪を踏みて

BERKELEY
LIBRARY
UNIVERSITY OF
CALIFORNIA

□ 七月號 □

種蒔き社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

NIA DEKLARO

Iam antaŭe homoj kreis diojn. Sed homoj nun estas ilin mortigintaj. La destino de l'kreitaĵoj estas facile divenebla.

Nuntempe ne sintrovas dioj. Tamen ĉie aliformigaĵoj de dioj estas plenaj. Dioj devas esti mortigataj. Kiuj ilin mortigas, estas ni; kaj kiuj ilin aprobas, estas la malamikoj. Du kampadejoj kontraŭstaras unu la alian. Dum ĉitiu stato daŭradas, homoj estas malamikoj de homoj. Neniam estas inter ili la vojo de kompromiso; tie nur estas „jes" aŭ „ne," „vero" aŭ „malvero."

Vero estas absoluta. Ni do diras pri la Vero, kiun aliuloj ne diras. Homoj estas lupoj kontraŭ homoj. Landoj aŭ rasoj estas en nenia rilato por ili. Sub la lumo de Vero okazas unuiĝo kaj apartiĝo.

Jen [illegible] batalas por la [illegible] [illegible] kune kun la kamaradoj el la tuta mondo!

La Semanto. (*TANEMAKIŜA*)

種蒔く人七月號目次

（題言）
資本主義と軍國主義……平林初之輔
無産青年運動の使命……青野季吉
午前十時その他……金子洋文
新らしき藝術青年に檄す……今野賢三
苦闘の三氏へ（葉書回答）
メーデー印象記……前田河廣一郎
ブルジョアカルトの組織と本質……赤根葭男
大地の匂ひ外一つ……小牧近江
宮島の月夜……杢太
圓鳥會第一回展覧會……松本弘二
井汲清治氏の名論……海野榮
握り合つた手は力だ……陀田勘助
□世界欄――同人消息――聾人欄
□表紙及びカット……柳瀬正夢
【戯曲】雪を踏みて……佐野袈裟美

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三人の革命評論家

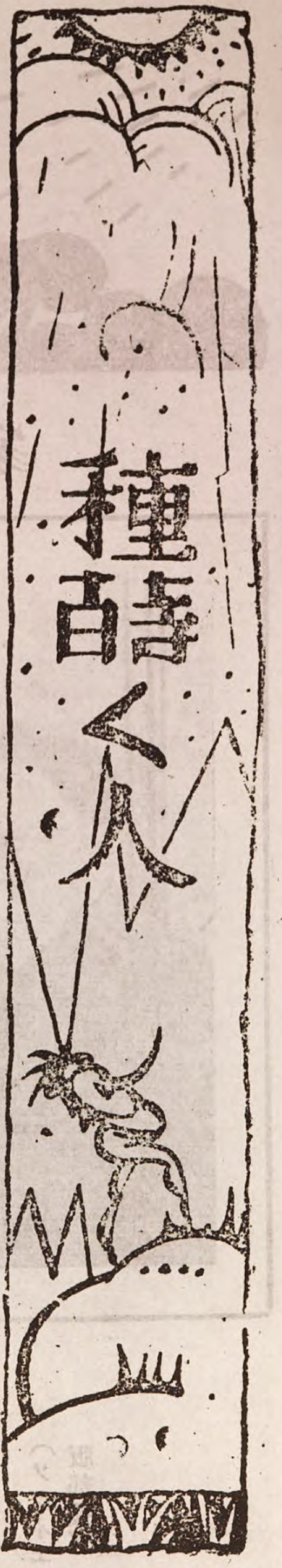
ブハリン（プラウダ紙主筆）

タールハイマー（獨逸共産黨機關「赤旗」主筆）

ラデック（ソヴィエット出版部長）

東167822

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



資本主義と軍國主義

平林初之輔

資本主義がもはや單なる民主々義的手段で發展する力がなくなつたこと、資本主義が軍國主義として以外にはもはや生命を維持する力のなくなつたことは今更ら言ふまでもないことである。

併し戰爭の深傷を受けた國際ブルジョアジイが、資本主義產業の恢復といふ大任を前にして、國費の半ばに近い富を浪費する陸海軍を此の上益々膨脹させてゆくわけには何としてもゆかぬ。そこでワシントンの軍備縮少に關する國際協定が結ばれた。ワシントン協定は、國際資本主義が、その死の途づれたる軍國主義の重荷を無限の軍備擴張競爭といふ形式に於てはもはや背負ひきれないことを告白したものであつた。

けれども、資本主義は、軍國主義なしには一日もやつてゆけぬ。軍備擴張競爭は中止しても、軍國主義そのものは、何等かの新しい形に於て、維持し、發展せしめなければならぬ。そこで日本の政府當局が最も正直に國民に披瀝したやうに、軍備縮少は、戰鬪力の縮少であつてはならぬのである。數字に現れた主力艦の排水噸數を制限する代りに、この量に於て、表面に於て失はれた戰鬪力を補充するためには、質に於て、內部に於て、新しい戰鬪力の資源を見出さね

ばならぬ。かうして、一方の出口を塞がれた軍國主義の病毒は、惡性のふきでもののやうに、資本主義社會の全面にふき出して來た。

反動團體の保護養成と國民皆兵主義の徹底、これが言ひ合はせたやうに各國のブルジョア階級に共通の政策として現はれた。イタリヤは遂にムソリニ一派のファシストの天下になつた。イギリスではロイド・ジョージの自由主義内閣が倒れて、保守黨内閣が現はれ、ブリチツシユ・リジョンその他の反動團體が活躍をはじめた。フランスではポアンカレが新首相となつてルール占領を斷行した。アメリカでは、クー・クツクス・クランといふ在郷軍人團(アメリカン・リジョン)が乘り出して來た。ドイツではミユンヘンのフエルキツシユ・ベオバハテルをはじめ各所に帝國主義運動が行はれ、クルツプ工場は反動運動の宣傳費を支給してゐると言はれてゐる。反動運動にかけてはかつて後れをとつたためしのない日本では、經綸學盟から國粹會、赤化防止團と、半官半民の反動團體が、最高學府の講壇から工場の内部まで綱の絲を張つたと同時に、軍隊の民衆化の名によりて軍國主義の毒液は至るところに注射されてゐる。

併しながら、軍國主義は、資本主義の存續に必要かくべからざる形態であると同時に、資本主義そのものを蝕む毒蟲であり、寄生蟲である。軍備擴張の形に於て一度び資本主義の生命を危篤に陷れた軍國主義は、如何に姿をかへても、資本主義にとつては依然として「重き負擔」でなければならぬ。新しい形の軍國主義は早くも資本主義の根底を蝕みはじめた。

國際ファシズムの本據イタリヤの一議員は、もはやファシズムの高壓政治には堪へられぬと叫んだ。ポアンカレーはルール占領によりて却つて産業の痲痺を招き、フランスの内相モーヌーリイはフランス全土にわたる王黨の反動革命陰謀を發表した。イギリスのブルジョアジイもぽつ〳〵保守黨政府に飽きを生じて來たらしい。クー・クツクス・クランの暴力はアブラハム・リンコルンの說いたアメリカ建國の精神、デモクラシイの精神を危殆に瀕せしめてゐる。さうして日本の警視廳は、反動團體に屬する二千餘名を新たにブラツク・リストにのせたと報じた新聞がある。

資本主義と軍國主義、この二つは切つてもきれぬ惡緣につながれた死の途づれである。それと同時にこの二つはどう

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しても順調に發達し得ない因果な身の上である。梅毒は肉體なしに毒威をふるふことはできぬと同じやうに、軍國主義なしの資本主義はない。けれども梅毒が肉體を斃すと同じやうに軍國主義は遂に資本主義そのものを斃さいればやまぬ。こゝに吾々は爛熟期に於ける資本主義の最も深刻な矛盾を見る。この矛盾は資本主義の藏する凡ゆる矛盾の中で最も致命的なものである。資本主義と軍國主義とはもはや孤立して存在することはできぬ。しかもそれは長く併存することもできぬ。共斃れ以外に未來はない。資本主義の存續する限り軍國主義も存續するであらうと同樣に、軍國主義の絶滅は同時に資本主義そのものゝ崩壞である。（六月二日）

無產青年運動の使命

運動の發生――特性――目標――反軍國運動――教育運動――革命任務――

青野季吉

早稻田大學に於ける無產青年學生の反軍國の運動は、遂に暴力團隊の恐怖主義の下に、所期の效果を歛めることが出來なかつた。しかしとにかく、日本の無產青年學生が反軍國の運動の第一聲を擧げたことは、日本の無產青年運動にとつて歷史的の意義を有する出來事と云はなければならぬ。早大の運動の破れたることはこれを認めねばならぬ。それは日本の無產青年運動の未熟を證明するものに外ならぬ。我々は今囘の敗北をいい敎訓として、更に强猲なる無產青年運動の戰線を組織する爲めに努力せねばならぬ。

私はこの機會に世界に於ける無產青年運動の始原と、特性と、目的とを研究して、わが無產青年運動の新たなる發途に資し度いと思ふ。この研究は主としてアレキサンダー・レオンチエフの記述によつたものである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一

勞働運動は近代史上の最も重大なる要素である。今やそれは最後の標的たる共産主義に近付いてゐると言つてよいであらう。無産階級鬪爭の黎明に於いては、この標的は不可能なるユトピヤ、夢想者の白日夢と見做された。然し勞働運動が今日まで歩いて來た道、不斷の鬪爭、一時の敗北、赫々たる勝利の長き道程は、無産者の最後の勝利の確實なることを證明したのである。勞働運動は資本主義の斷崖を嚙む荒海である。河川が一に合して大海に注ぎ込むが如く、無産階級の諸組織は、大いなる勞働運動の大海に注ぐ河川である。無産青年運動もこの河川の一つに外ならぬ。

資本主義はその勝利の進軍中に於て、慘酷にも家庭を破壞して仕舞ふ。資本家社會の最高支配者は、無産階級の家庭から先づ婦人を奪取し、次いで小供を引き出し、これを陰慘なる職場、囂々たる工場に投込む。或る國々ではまた地獄の如き炭坑へ埋め込むのである。

資本主義の初期には、非常に多數の少年が使用された。一八三三年頃、英國の紡績工場に於ては、五歳から九歳までの少年が雇用され、十四時間から十六時間の勞働を課せられた。（エンゲルス「英國勞働階級の狀態」）機械による生産技術の發落は、凡ての勞働過程を單純化し、極めて簡單なる作業としてしまつた。この爲めに婦人及び少年の大袈裟な搾取が可能となつた。資本家等は少年勞働者を以つて、最も安價なる勞働者と見做すに到つたのである。

少年勞働の使用の最高潮に達したのは、十九世紀の未期及び二十世紀の初頭である。凡ての國に於て、青年勞働者の數は成年勞働者の數に比して遙かに上であつた。一九〇七年の國勢調査によると、獨逸の諸産業に雇用されてゐる十四歳から十八歳までの少青年勞働者は、三百萬に達し、一九一二年の瑞典では四十萬人の全勞働者中、九萬二千人が少青年勞働者であつた。

少青年勞働は二つの方面で搾取される。大機械工業と小産業の二つの方面である。資本家は少青年勞働を以つて最も

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

安價なる勞働給付とするが、一方に於て小製造業者及び職業視方は、少青年を骨まで搾取することによつて、始めて大生產と競爭することが出來るのである。

大衆の忍ぶ可からざる被搾取、被征服の爲めに、こゝに一般的な勞働運動の興隆と發達とを見るに到つた。苦しい狀態の下に生きる青年勞働が基礎となつて、そこから若き社會主義者が輩出するに到つた。

青年勞働者團隊は、最初に先づ、少青年賃銀勞働者の經濟狀態改善の運動として起つた若干の國々では、これ以外の仕事に運動したのもあるが、大體に於ては經濟問題に特別の注意を拂つたのである。青年勞働者は資本主義の初頭に於て、既に一種の組合を組織してゐたとして知られてゐる。卽ちその時代に、近代勞働運動の先驅とも呼ぶ可きもの、徒弟の友愛組合が存在した。青年勞働者の近代社會主義運動の原型である徒弟團隊が生れたのは、この友愛組合と關係したものである。こんなわけで一八四八年の革命時に於ては、ウィンナ及び墺太利全國に、「青年徒弟團隊」が組織され、その第一の要求は搾取及び壓迫の輕減、より善き生活及び勞働狀態の獲得であつた。しかし是等の團隊は、まだその活動を示す機會を得ないうちに、反動勢力の巨きな打擊の下に、崩壞の運命をたどらざるを得なかつた。

それから約半世紀後に及んで、青年勞働者運動が再起したが、この度は一層持續的な組織な形をとつて現はれたのである。八十年代に於て、先づそれが白耳義に現はれた。白耳義に於ける徒弟法の提出が、いかなる事情の下で爲されたるにせよ、且つ、社會主義的の見地からそれが如何に不完全なものにしても、それは實に青年勞働者團隊の闘爭の結果だつたのである。その闘爭は一般の勞働組合と協力して行はれた。しかし成年勞働者は長い間青年の兄弟達の勞働狀態に注意を拂はなかつたのである。

二

青年勞働の廣汎なる雇用の如き、經濟的理由に加ふるに、他の多くの理由があつて、青年勞働者團隊の隆起を見るに到つたのであるが、その最初に來るものは軍國主義である。最近十數年間、帝國主義の血にぬれた大地に咲き出でた軍

國主義である。

帝國主義は市場に對する國民的努力、競爭、侵略政策、世界支配の目的の爲めに、當然に軍國主義の生起と發達とを促し、武力の大擴張を促さねばおかぬ。一八七〇——七一年の普佛戰爭このかた歐羅巴に樹立された「武裝的平和」及び、有名な歐羅巴の勢力平衡說は、底止する所無き軍國主義の生長を導いたのである。

帝國主義に依る全負擔は、國內及び國外の勞働大衆の肩に課せられた。武器製造に必要なる材料を供給するものは彼等である。資本主義支配者の利益の爲めの戰爭に於て、硝煙の下に屍を曝らす軍隊に、血と肉とを供給するものは彼等である。ブルジョア諸國に於ける軍國主義の、他の重要なる役目は、勞働階級に對する力爭のそれである。特に平和時に當つて、軍隊が屢々「內敵」卽ち勞働運動及び社會主義に對して使用されることは、爭ふ可からざる事實である。

されば各國の社會主義團隊が長い間軍國主義に向つて鬪爭してゐるのは何等驚く可きことではない。この鬪爭は、巨大なる軍備に對する抗議の形を執り、平和の騷擾及び宣傳の形を執つた。それと同時に、出來得るならば支配階級から軍隊の持つ力を奪取することが最も必要である。軍隊をして鬪爭的勞働者に對する「國內用」に不向きにすること、それが缺く可からざることゝなつた。こゝに於て、軍隊に召集される以前に、青年勞働者を摑むと云ふ觀念が生起したのは、極めて自然なことゝ云はねばならぬ。

一方に於て社會主義者であつて、軍務の苦痛を經驗した青年勞働者は、積極的に軍國主義に反抗せざるを得ない。これがまた彼等の反軍國鬪爭を導いた。經濟的搾取に加ふるに軍事的壓迫が、無產青年運動の興隆を促した原因であり、反軍國主義鬪爭の目的を以つて、多數の無產青年團隊が組織された。

これが起つたのは青年勞働者の最初の組織を見た白耳義に於てゞある。或る國々ではまた社會主義團隊の反軍國鬪爭の途上に於いて、無產青年團隊が組織された。例へばスカンヂナヴィヤの諸國に見るが如くである。しかしハップスブル王家の壓迫強き墺太利のやうな政治的難關のある國々では、この鬪爭はしたがつて薄弱であつた。

「軍國主義に對する無產青年の運動は、殆んど凡ての社會主義少年によく知られた事實である。愛國主義者の利益の爲

めに企てられた青年の軍事教育は、國家に對する盲目の嫌惡を導いて來た。軍閥の戰爭教育は社會民主青年聯盟の社會主義的平和準備によつて逆襲された。」（ミューツェンベルグ「自由青年綱領」）しかしこれからの青年聯盟の仕事は、反軍國觀念の宣傳による「社會主義的平和準備」だけに止まつてはゐなかつた。軍國主義及び軍閥に對する示威運動及び反抗の形を執れる一層直接の反軍國運動が同時に行はれた。最も大規模の示威運動が起つたのは、一九一四年の戰爭の動員の際に於いて白耳義に起つたものである。「大行列は市内を練つて動員集合の驛々に到り、手に手に赤旗を振り革命歌を高唱し、示威青年はいづれも喪服を着け、帽子に黑い布を卷いてゐた。その後白耳義無產青年聯盟に動員が下つて來た時、それらの青年は「青年獲備隊」に入る爲め鬮を引くことを命ぜられたが、彼等はそれを拒絕し熱烈な演說を以つて之に答へた。かくて强制的手段によつて彼等を軍隊に投入れる手段が講ぜられたのである。」（チチエリン「青年インターナショナルの歷史」）

最後には實際鬪爭の最善の方法として、軍隊服務の直接拒絕が、多くの場合に實行されたのである。

三

經濟的壓迫に對する反抗、反軍國主義鬪爭の結果として起つた無產青年運動は、直ちにあらゆる國々に波及し、數十萬の同志を獲得した。創立時代に於けるこの運動の主要目的であつた經濟鬪爭、反軍國運動に加へて、間もなく更に一層遠大な大いなる仕事が當面して來た。社會主義及び階級鬪爭の精神をもつて、青年勞働者の大衆を教育する事、解放鬪爭の鬪士として參加する如く青年勞働者を訓練する事、疋である。

かくて無產青年運動は各國の國狀に應じて夫々異つた形をとつて現はれた。白耳義では反軍國運動が主であつた。墺太利では經濟的鬪爭に力が集中された。獨逸は運動はより多く教育的性質を帶びて來た。しかし凡ての國に於て、それは無產青年の教育、訓練といふ一つの方向、一つの目的を追窮した。

この理由は極めて明白である。「未來は青年を擁するものゝ手にある」からである。青年が新らしき光明ある未來の戰

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

士たる社會主義者に屬す可きは事の當然である。それば革命的社會主義者が無產青年に注意を向けて來たのは、自然な事である。

無產青年運動はこの目的を達成する爲め如何なる方法を執つたか？　その極あて重要なる仕事が如何なる方法で解決されてゐるか？

先づ敎育活動の最初のコースがある。小學校を卒へたばかりで勞働に從事する少年勞働者に對して、その政治的經濟的の自覺を起させる爲め、諸種の報道を與へることが、その最初の努力であつた。

更にこの運動は進んで無產青年に對して文化生活・經濟生活、政治生活に對する批判性を具へしめる點まで達したが、その最も廣汎に亘つて行はれたのは、一九一四年の大戰に先立つ獨逸に於てゞあつた。

しかしミューツエンベルグがその敎育論文に於て述べたやうに、「吾人の目的は無產青年を敎養するばかりでなく、彼等をして彼等自身の爲め、彼等の「コムレード」の爲めに日々に活動するやうに訓練するにある。」無產青年運動の敎育的方面は正にその方向を執つて進んで來てゐるのである。社會主義者敎育事業が無產青年に對して、科學的理論的知識を與へる一方に於いて、無產青年團隊にある青年等は、社會主義敎育運動に參加し、階級闘爭に身を挺す可き實際的經驗を獲得した。この實際的經驗は、科學的社會主義の知識と同樣、極めて重大なるものである。

四

殆んど凡ての國に於ける青年勞働者は、世界大戰中に於いて、「前衛」中の「前衛」として現はれて來た。日和見的第二インターナショナルと最初に斷絕したものは彼等であつた。勞働階級のいかなる部門にも先立つて新共產黨インターナショナルの觀念を熱烈に受諾したのも彼等であつた。

大同盟罷業、赤威運動、武裝反亂には常に青年共產黨員が、戰線の先頭にその姿を見せた。一九一九年伯林に於けるスパルタカス反亂に於いて、青年勞働者は市街戰に於いて敷區を占領し、ノスケの白衛軍の猛烈な逆襲に對して、勇敢

に力戰した。この社會黨執行官の犧牲の中には、不屈な、純潔な、犧牲的な數百の無產青年が數へられた。

ロシャ無產階級の求援のアピールに對して最効に應じたものは青年勞働者であつた。一九一九年十一月七日のロシャ革命第二年紀念日に、西歐の「民主黨」政府と、中歐の「社會黨」政府とは聯合して鐵の如き壓迫政策を執り、無產青年運動の闘士を逮捕し、示威運動を抑壓した。

一九一九年伯林に開かれた青年勞働團隊インターナショナル大會は、コンミユニスト青年インターナショナルの基礎を作り、この運動の政治的意義を明白に決定した。右大會の可決せる綱領は云ふ。「…………………………………………………………………………………………

………。」と。

青年コンミユニスト・インターナショナルは、第三インターナショナルの一部を形成して居り、各自國の共產黨諸國隊と密接なる關係を保つてゐる。

無產青年團隊の政治的任務は、共產黨諸派に對する援助だけで終るものでない。「コンミユニスト・インターナショナル」誌（第七―八）に掲げられ「伊太利と革命」なる一文によれば、少しも青年團隊の存在しない後れた地方にも、青年社會主義者の强固な團隊がゐる。伊太利に於ては、三十萬以上の在鄕軍人が一個の社會主義團隊を組織してゐる。この組織は、主として青年社會主義者の努力の結晶であると言ふ。

五

無產青年の活動は、反動革命に對する共產主義兄弟の闘爭、並に、新社會樹立に對する努力への重大なる應援の中に表明されてゐる。吾人は過去二ケ年半のロシアに於いて、同時にまた、ソヴイエツト・ハンガリーの短かい經驗によつてこの援助の重要なることを判定し得るのである。

無產階級國家の第一の仕事は、……………………………………………。この防衞は勞働階級中の最良分子を以つて編制

されたる赤軍を以つて維持される。青年同盟の數千の勞働者及び農民はソヴィエツト・ロシアに於いて赤軍に加つた。ハンガリー革命的青年勞働者は、不屈の勇氣を持つて戰ひ、ハンガリーの赤軍の勝利と敗北の運命を共にした。

これと同様な重要な意義を有する仕事は、共産主義の精神と綱領において、無智なる勞働階級を教育することである「………於て、吾人はハンガリー・ソヴイエツト共和國の大いなる教化事業の一部を擔任した。吾人の一團隊は、百五十名の組織者と宣傳員とを從へて、農業地へ派遣された」(ヨハン・ルケー「ハンガリーの無産青年運動」)

無産階級共和國に於ける社會主義的生産の組織事業は、眞に廣汎至難なる業いてある。青年勞働者の社會主義的組織が、無産青年同盟の任務となつた。青年共産インタナショナルの綱領に關し、ハンガリーの一同志は誌して曰く、「青年勞働者の勞働條件の完全なる變革は、共産社會に於てのみ可能である。吾人が今日まで資本主義國家に對して爲して來た闘爭は、今や、國家の仕事となつた。」と。青年勞働者に對する四時間乃至六時間勞働制、適當なる賃銀率制、勞働と一般教育並に職業的技術的教育の密着、——青年勞働者團隊の要求と目的たるそれらの一切は、今や勞働國家に於て實現されてゐるのである。

十九世紀の或る獨逸の自由主義者は、「勞働者倶樂部は、人類の發達吏に於いて、サドバの戰爭よりも、重大なる意味を有つてゐる」と言つた。吾人はいまこの言葉を解いて言はう。…………、ブレスト及びヴエルサイユの侵略的條約及び帝國主義ブルジョアの歴史的活動の一切よりも、遙かに重大なる意義を有するものであると。一度び吾人が若き生長する大衆を……………………………………(終)

豫告。 八月號の本誌を「農村號」として農村生活、農民運動、農村文化の記事を滿載するつもりです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

午前十時その他

金子洋文

午前十時

こゝに一箇の戯曲があるとする。かりに太陽へ發表した僕の「狐」と假定してもいゝ。

あの戯曲の第一幕は午前十時である。あの一幕目は夜であつても、朝早朝であつてもいけない。老人が網を繕ふ時間から言つても、若者がお湯にはいりに來る時間から言つても、馘首になつた石油會社の職工が來る時間から言つても、いろ〳〵なことが有機的に一つになるには絶體に午前十時でなければいけない。

それだのに、第一幕目にとし子の夫を出さないからと言つて非難するのは愚かである、彼は石油會社の事務員である、事務員が午前十時なのに、まだ出勤しないで家にぐづぐづしてゐたら、甚だおかしい。それこそお芝居になつてしまふ。

一體に、あの人物をもつと舞臺に出した方がいゝとか何とか言ふ批評は愚劣である、從來の戯曲構成の、常套的な型から言へば、主要な人物を初つから終りの幕まで出演させなければ、甚だ都合が悪いだらうが、僕等にとつてはさうした狭い考へ方は御免である、主要人物でも必要でない時は登場を許すわけにはいけない。「狐」の貞藏なら、午前十時になど、用もないのに事務所からのこのこ歸つて來られちや困るのである。

舞臺は生活である。

その舞臺に一つの窓、一つの扉がある以上その生活が外部と交渉してゐる筈である、この意味に於て、作者は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

限られた舞臺のみを描いてはいけない、舞臺を描くに依つて、窓及扉と通じてゐる外部の生活そのものをも描き出さなければいけない、もつと細かく言へば、舞臺の上の人物を完全に表現すると同時に舞臺に登場しない人物をも完全に表現しなければいけない。同時に批評家は、その人物が多く舞臺へ出る出ないに拘泥しないで、作者に依つて描かれてゐる人間の、死んでゐるか生きてゐるかを、先づ眞先に感じなければいけない。

藤井眞澄君

君へ一番言葉をかけ易いので、また呼びかける。言ひたいのは「狐」に對するイブセン會の批評についてだ。

大關君の見えすいた非難の應酬など一笑にも價値しない、僕が一番氣にかゝることは、表現技巧を輕く見て、内容を重大視してゐる君達仲間が、僕が書かうとしたものを、誰も見拔いてゐないことだ、これでは口先の内容論と笑はれたつて一言もあるまい、小手先の上手を非難することは大いによろしい、同時に中味の空虚を指摘することも頗る結構である。

而し、作者の書かうとしたものを發見することが出來ず、言葉を換へて言へば、ちよいと輕く眼を通して、充分考へもせずに、盲滅法なことを言ふことは愚の骨頂である。

流石に君だけは（何を書かうとしたのだらう）位は考へたらしい、而し、君の考へも頗る淺かつたと見えて、寧ろ考へない方がましな位のつまらないことを言つてゐる。

『チエホフをにらつたものらしいが、チエホフのやうな哲學も何もない。』

藤井君冗談言つては困ります。僕はチエホフは非常に好きだが、今更チエホフを眞似やうとは思つてゐない、まして彼の思想と僕の持つてゐる思想とはまるでちがつてゐるのだ。

「狐」は何を書かうとしたか。

田舍に於けるプチ、ブルジュアの思想及び感情の自滅を書かうとしたものである。「狐」と名題したのは、一寸面白さうな題だからと言ふので、漫然とつけたのではない、プチーの象徴なのだ。

この點を考へないで、器用で何うとか、内容がないと

か言ふのは、言ふ人の淺慮を示すばかりだ、非難するのは決して差支へないが、作者が書かうとしだ、その位のことがわからないでは仕方がない。

タシサイサイのイブセン會の仲間に一人もそれをわかつた人がゐなかつたのは誠に殘念である。

「狐」の缺點

「狐」の缺點は革命家の欣二が生々しく書けなかつた點である、作者はあの人間を本當につかんでゐなかつた、そのためにあの作の力が非常にぶつてしまつた。これは革命家に對する作者の燃燒が足りなかつたためである、この點甚だザンキに堪えない。そのために作者の婦人解放の希企が、いやなものとなつてしまつた。實に恥しい次第である。

途

理想社會に到達する途は一本しかない。

……………………

人道は現世に於ては地上にはない。
空間の途である。
それを慾する人は二つの翅を求めるがいゝ。而し、
(飛んだものは落ちる)
この眞理を忘れない方がいゝだらう。

武者小路實篤氏に

あなたを尊敬してゐる故に、
あなたの言ふことが氣にかゝります。
あなたは婦人公論で、
社會主義の理論はいゝが
暴力を鼻にかける人間がゐるので
社會主義も嫌らひだ、と言つてゐます。
かういふことを
あなたがまだ平氣で言つてゐるのを遺憾に思ひます。
同じ非難をあなたに向けたら
あなたは何う答へます。
あなたのぐるりにも
鼻持のならない
人道主義がうよ〳〵してゐることが
氣がつきませんか。
これはM君も言つてゐました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

精神的であると言ふ點で、
私達は
あなた達にも負けない氣でゐます。
私は、今、
あなた以上だと、
言ひきるだけの勇氣がありませんが、
自分の正しい主義のために、
生命をなげ出すだけの勇氣をいつでも
持つてゐます。
（一つよりない生命を、
　社會主義のためになくすのはいやだ、
　生命が二つあつたなら、
　一つだけその方へ使つてもいゝ）
かういふことを、
あなたが何處かで言つたやうに覺えてゐます。
私は輕薄にこの言葉を笑はうとは思つてゐません。
私でも一つしかない自分の生命を惜しく思つてゐます
また暴力よりも
新らしき建設に大きな觀びを感じます。
……………。

……………………
……………………
……………
……………、
……………、………、
……………………。
……………………
…………。
…………。
…………。
あなたの村を、
共産主義の村だと言はれたつて、
あなたは辯解しなくてもいゝと思ひます。
事實、
立派な共産主義の村なのだから。
私には、
あなたが社會主義をやつつける割合に
今の社會に、
非常に遠慮してゐるやうな氣がします。

それを残念に思ひます。

宮島資夫氏に

更にあなたを知つたことを
嬉しく思つた。
僕は虚心で
あなたの無政府主義論をきゝます。
あなたも
僕達の仲間の言ふことを
虚心で聞いてもらひたい。
…………………。
…………………………。

（一九二三、六、一）

新しき藝術青年に檄す

今野賢三

われ等、新しく若き藝術の兄弟たちよ——。

兄弟たちは五月號の卷頭語を記憶するか。あれを、無意味に讀んでくれはしないだらうな。

兄弟は、あれをどういふ意味にとつたか？

あれは兄弟には交渉のない言葉であつたか？

分裂と統整——。

それは、底力の强い、立派な宣戰布告だ。火のやうな愛と涙の宣言だ。

分裂と統整に對して、われ等『白き手』の仲間は互ひに相顧たか？ いや、それは言ふまでもないことだ。統整のためには、分裂もまた止むを得ないと涙を呑んで互ひに顏を見合せた筈ではないか！

しかし、純眞な若き兄弟——。

君たちは、われ等プロレタリヤ藝術戰士にむかつて、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不滿を、抱きはしないか。

少くとも、君たちが純眞であればあるほど、現在の、君たちが非常に期待する作家の作品に對しても、飽きたりないと思ふことがありはしないか？　兄弟——若し君たちが、純勞働者であつたら、より以上の不滿と、憤怒を感ずるかも知れない。俺のやうに、同志の仲間にゐるものでさへ、ブルジョアにむかつて感ずると同じ、憤懣を感ずることがあるではないか。

仲間の間で、分裂だとか、統整だとかいふのはみにくいことである。恥べきことである。

あゝその、醜い、恥づべきことを、なほさら堂々と叫んで、統整を必要とした。そして、その結果どの程度まで統整が行はれたか。

兄弟、そのことでわれ等を責められることは、誠に辛いことである。

けれども兄弟——。

以來日本人のうすッぺらさは、つねに〳〵妥協することだ。つねに〳〵ごまかすことだ。相手をごまかすばかりではない、世の中をごまかすばかりではない、最も都合よく自分をごまかす。ごまかしが今日の無意識的な人生觀である。

それだから生活が表皮的になり、酒の一杯もおごられゝば階級意識など飛んで了ふのだ。兄弟よ！

プロレタリヤ藝術戰士に、かうした、要領を得た、ごまかしの人生觀に立着してゐるものは、殆ど居ないだらうことをおれは信じたい。けれども、兄弟たちの眼に、さうした不滿が映つたらどうする。君たちはだまつてゐるか。今日の資本家に對すると同じやうに、敵對行動に出ないでゐられるか。

全體の…………から言つて、なによりも情けなく思ふのは、日本人の妥協性である。此の妥協性はつねに進行を停滯させ、墮落させる。それだから、表面はつねに圓滿である。權力階級が皮肉な微笑を禁じ得ない圓滿である。

『妥協とごまかしで生きてゐる、腸のない日本人になにが出來るか。酒の一杯も飲まして見ろ、ころりと參るぢやないか』と、彼奴等は腹の中でつねにせゝら笑つてゐるだらう。此のころりと參るところは、ブルジョアがこしらゐた道德から見れば人情美だらうが、おれたちから見れば立派な奴隷根生なのだ。それはとにかく、此の『妥

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

協性』がつねに堂々たる爭ひをさせないで、かげでそッと握手をさせる。いけないのは此の點である。日本人の生活に、あまりに堂々たる爭ひがなさすぎる。思想上に於ても、徹底的な爭ひがなさすぎる。その不幸は計り知れない。

若しわれ／＼の戰鬪意識が、ほんたうに内部的なものであつたなら、若しこゝに裏切りものがあつた場合、ブルジョアに向けてゐた鋒先を、その裏切りものにも向けずにゐられないのは當然である。

よろしく、自己の對度と、行動は同じでなければならない。われ等の戰鬪意識は、瞬間も、行動をはなれて存在しない。作品も行動であると信ずるところに、プロレタリヤ藝術戰士の立場がある。

若き兄弟よ、君たちには、こんなことはわかりきつたことに違ひない。或はおれだつて、君たちから、彈劾される一人であるかも知れない。よし、いさぎよく、おれは矢表てに立たう。同時に、ほかのぬらくらを彈劾しないでおれにむかつて來たら、おれは承知しない。さうしてこそ、はじめて分裂から統整への段階を踏むのだ。

しかし、若き兄弟！　くれ／＼も君たちに言はねばならない。

全體の進行を、一日も早からしめんと、火のやうな信念を抱いてゐる君たちであるから、或は言ふまでもないことかも知れない。が、今日の文壇なるものを、君たちは冷靜に、完全に見てゐるか。あのくさつた文壇を完全に見てゐるか。現在の文壇は一種の賭博場だ。さいころのころがりやう一つで、寢たり起きたりしてゐるんだ。

一つの群集心理の支配で、たゞガヤ／＼騷いでゐる附和雷同の集りだ。その證據には見ろ！　ブルジョア作家は以前としてブルジョア作家であり、文壇は以前として文壇である。

君たちに心から呼びかける。あくまでも吾等は、眞の信念と、冴えたる藝術良心と、つねに誠實と、つねに戰鬪意識を燃やして、まつすぐらに、わき眼もふらず進まうではないか。……………………、……………………、……………………、……………………。

兄弟よ！　兄弟よ！　しつかと抱き合つて、しつかと抱き合つて進まう！

われ等は決して賣名の徒とはなるまい。

要するに、われ等の藝術にプロレタリヤとして　生命

が燃えてゐるなら、それで充分なんで。人の魂に喰ひ込む力を持つ時、われ等の藝術に價値が生ずる。

『力があれば光りを放つ！』

この言葉は、數年來から、暗黑のなかにひとり靜に微笑をつゞけることの出來た人知れぬ信仰であつた。そしておれは默々と歩いて來た。おれが藝術運動の一戰士として、………の一雜兵として、どんな隅つこに倒されやうとも、また倒れ　うとも、おれ自身の力が眞實であつて、最後まで戰ひ拔いたのであつたなら、おれの魂は安らかに微笑し、ひとりでに光りを放つ……。

さらば、若き兄弟！

（五、二五）

『地獄の會』神田の佛教會館で洋文氏の短篇集、地獄の出版記念講演會が、六月十八日に行はれた。午後七時、會場は九分どほりの聽衆で占められた。開會の挨拶をかれて今野氏が自己の文藝上の立場を、鮮明にし、無名の英雄たらんことを聽衆に求めた。藤森成吉氏の洋文に就ての感想その他、秋田雨雀氏は洋文に對して厚意溢るゝ忠言を寄せ、戲曲「夢」の朗讀、（水谷八重子、西條しづ子）があつて、洋文の挨拶後、地獄の朗讀があつて後、階上、ピースサロンで懇親會が開かれた、讀者諸君に言ひたい。此の地獄の出版記念會は、種蒔き社の主催ではない。そのやうに誤解した人も少くなかつたやうである。會場内の全體の空氣に疑問を抱いたからとて、種蒔き社の全體に疑問を抱いて貰ひたくない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

苦闘の三氏へ

小川未明、秋田雨雀、中村吉藏三氏の、文壇二十年、しかも虐げられたるもの丶爲めの苦闘を慰勞し、記念するため記念會を催ほすことにした。本誌は文壇諸家に乞ふて、三氏に對する高見を寄せて貰つた。この際無意義なことではないと信ずる。

□藤森成吉

お座なりが嫌ひだから率直に感想を書く

一、小川未明氏は、何より「大きな子供」と云つた感じの人だ、議論は、すべて恐ろしく飛躍的斷片的だ、が、純粋で、詩人的直覺が閃めく。

二、秋田雨雀氏、ちがつた意味で「大きな子供」と云つた感じの人だ。すべての新しいもの、いいものに對して、本能的感受性を持つ、三氏中、個人的に一番親しくして貰つてゐるだけ、一寸此の際ザツクラバンに云ふと、氏にはかなりズボラな點がある、よく知つてゐながら、時には變な氣もちがする。

二先輩共、短篇童話作家としては、或る意味で世界的と云へると思ふ。

三、中村吉藏氏、不幸にして、今まで讀んだわづかの氏の戯曲にはあまり感心してゐない、が、態度の眞面目な作家だ。

以上三氏共、從來の文壇的臭味の不思議に無い――或は無いところに、大きい尊敬を持つ。

□井東憲

私は、先づ三氏に對して、二十年(?)もの永い間、文筆に生き、文筆を以て闘つて來られた努力と苦闘との前に、謹で、敬意を表したいと存じます。

秋田雨雀氏、何と云ふ善良な、なつかしい人格者であらう。本當に藝術家らしい「正しい人間」です。

小川未明氏、偉大なる純粋人です。心から藝術は人格なりと、シミジミ想はせるお方です。

中村吉藏氏、未だ一度も御謦咳に接した事はございませんが、當代第一流の社會劇作家だと信じます。春雨の昔の御活動もさる事乍ら、洋行以來、益々戯曲的方面を開拓、創作して下さる事は、喜びに堪えません。

□吉田金重

中村吉藏氏は未だ會つたこともなければ書いたものも讀んでゐないので、なんと言つてい丶か知りません。

秋田雨雀氏とはちよい〳〵會ふが、その書いたものと言つては、まだ一つ二つしか讀んでゐませんし、別にこれと言ふ感想はありません。

小川未明氏とは、こ丶七八年の知己であり、親交さへ結んでゐるから、感想と言ふほどのことまでは言へないが、些か自分の考へをのべさせて貰ひます。それは

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

氏はどこまでも人道主義者であり、感激の詩人であり、また無垢の藝術家であると言ふこです。そこに氏の、永遠の生命さへあるのです。しかし氏はまだ〳〵、社會的にも生活的にも、その渾身の努力を致されるであらうし、また致して貰はなくてはならんと思ふのです。それは氏がボルセビストであらうと、またアナアキストであらうと、敢て問ふところではありません、たゞ氏はいつまでも、正義の味方であると言ふことは、言ひ得らるゝのであります。そこに尊敬すべき、何物かがなくてはなりません。以上

□ 岡本潤

新居格氏だつたかもどこかで言つて居られたやうに記憶しますが、無産階級運動は、どうしても「無産讃仰」でなければウソだと信じてゐます。その意味から言つて、小川、秋田、中村の三氏を全然無視してもいゝと言ふのではありませんが、今度の企てが「種蒔き社」であるだけ、それだけ何だか僕には不似合な氣もせられるのです。小川氏は確か朝日の「廻轉椅子」―で辭退して居られたやうに思ひますが。

中村吉藏氏は個人的には全然知らない人です。

秋田雨雀氏には社會主義同盟で、も一二度お目にかかつた記憶があり、又一度お宅を訪問したこともありますが、闘爭意識と共に何か深い寂しさを持つてゐる人のやうに感じてゐます。

□ 津村京村

小川、秋田、中村三氏の中で、自分が人として一番よく知つてゐるのは秋田氏である。秋田氏とは最う可なり古い知合である。そして其人格には以前から推服してゐる。その作品よりも、より人格の方に敬意を持つてゐる。作物としては、寧ろ氏の初期の物の方へ好意を持つ。小川氏の方は、余り相會した機會は多くないが、その作物には隨分多く接してゐる。十年依然たる、いや二十年依然たる、その純眞なる作家的精進！それには常に敬服しきつてゐる。中村氏は新劇壇の先覺として古い記憶の中に在る人だか最近何新人の觀があるのは特筆すべきだと思ふ

□ 山内房吉

小川未明氏、鋭い直觀と性格的なヒューマニズムと純な正義感とが氏をして今日あらしめたのだと思ふ。氏が時代と共に新しい所以だ。世渡り上手の、悧巧な作家などは正直者の運動であるプロレタリヤ運動の戰線に立つやうな損なことはしないであらうから。

秋田雨雀氏、眞摯な、聰明な、而もリファインされたインテリゲンテヤといふ感じを受ける。氏の講演は實に手に入つたものだ。それは戯曲と共に氏の有力な武器だと思ふ、プロレタリヤン・エスペランチストとしての貢獻も特筆すべきだ。

中村吉藏氏については何も言ふ資格がない。

□ 新井紀一

二十年一貫、プロレタリアの爲めに戰つて來られた未明氏、それから雨雀氏、吉藏氏の爲めに敬意を表します。三氏が三氏共、藝術家であつて所謂實行家ではあ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

りません。兎もすれば、藝術を輕蔑して街頭に爆彈を持つて立て——と悲慘がる、そのくせ、さういふ先生逹ち自身一向爆彈を持つて立ちさうもないのを見る時、どつちを輕蔑していゝのか分らなくなります。今日これ程階級意識が文壇以外、一般社會に浸潤し覺醒したと云ふことも時勢の力以外、三氏の如き藝術家が文壇思想界に於ける荊棘の道を切り拓いてくれたことに歸着しても强ち强辯には云へないでせう。我等後進はその點で三氏がこれまで我國文壇の爲めに盡して來られた功蹟に對して感激するばかりです。

□ 堺　利　彦

小供のように純潔な未明君、如才ないようでウブな雨雀君、凡俗のようで超然とした吉藏君。三人とも皆な大して派手な花の咲かない人柄だ。そこに三君の堅實さが窺はる。私は三君が大流行作家にならない點に於いて、却つて大いに三君を尊信する。未明君はどこまでも純潔であれ、雨雀君はどこまでもウブであれ、そして吉藏君はどこまでも超然たれ。

□ 生　田　長　江

三君とも誠に正直な、眞面目な、立派な紳士だと思ひます。殊に小川君の感激性、秋田君の純潔さと氣品と、中村君の質實に對しては、いつも多大の敬意を拂つて居ります。

□ 福　田　正　夫

小川未明氏の作品はその人格の底から湧き上つた情熱で、深い感銘をあたへてくれます。そかられ秋田氏の革命的な心情中村氏の長く變らない情熱……私など十四五の時から三氏の作品などを愛讀して來たものですが、いつも社會と人生とに高い標識をかゝげてゐる作家として尊敬してゐます。さうしてこの三氏を根をすえた巨木として考へたい氣がします。

□ 片　岡　厚

三人の中では自分は中村吉藏が一番好きです。總ての點に於てまた最も優れてゐると思ふ。特に彼は我々日本人の持つてゐる善いところ悪いところをかなりよく知つてゐて、其の理解によつて彼が引く太い線に味がある。聞くところによると彼はステルネリアンだとか、イプセンとステルネルの深い智的關係を以てしてはイプセン崇拜の彼がステルネリアンであることに何の不思議はない。彼が彼を振舞ふ時が矢張りいゝやうだ。

しかし未明と雨雀は彼が持たないものを持つてゐる。其れは悪く云へばセンチメンタリズムだが、よく言へば共通のチンダアネスであり、共通の若さである。

□ 萩　原　恭　次　郎

私は未だ三氏に對しどなたにも面談したことがない。間接に文筆の士として描き出す以外に知らない。で、私は語る資格が無いかも知れない。私はその人の藝術としてのバツク！卽ち生活態度を知らない。藝術品だけにてその人を評するのは三氏に付ては絶對にさけたいから——。

秋田氏にせよ、小川氏にせよ、中村氏にせよ、文筆上からも、噂話からも、正直な少數の藝術家としての先輩である事を思はせる。私はいつかの教示を仰ぎたい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その日を願つてゐる。私は私のよろこびを捧げるのなら、この三氏によろこんで捧げることが出來るだらう。

□ 蝙蝠座 松木良勝

青騎手小劇場急進派のみによつて組織された、蝙蝠座同人の三氏に對する感謝の數字化

小川氏 十點
秋田氏 八點
中村氏 六點

□ 千葉龜雄

私などは文壇の一傍觀人として、三氏の藝術の生ひ立ちから、現在までにずつとついて見て來た方では、まづ古い方の人間でありませう。我等の原始頃の藝術が今日に見るやうな我等の藝術と同じ傾向のものであつたといふならば、それは却つて贏負の引倒しになるおそれが無いとも限りません。たゞ三氏が、めまぐろしいあの文壇思潮のうつりかわりの圏外に立つて、いつも嚴肅に自己を見守つて居たこと。そして或は過分にラフであつたら、或は傷感的であつたりしたその藝術の中にも、今日の三氏の生れて來る芽が靜に潜んで、おもむろに生長しつゝあつた事は、不自然でなく氏等の舊藝術から充分に味はれるのであります。即ち或は人道主義或は宗教的苦惱を盛つたその藝術は、當然何等かのはけ口を、何等かの意識に求めて、求め得ずに暗中を模索する苦悶であつた事がわかります。そして此等は今ま完全に、やうやく其長く求めつゝあつた意識を正しく探り當てたので氏等の今日までの藝術調は、即ちその長い忍苦の求道の歴史でありました。小川氏の純な感情、中村氏の強い意志、秋田氏の聰明な理知――は人格と藝術がぴつたり合致したまゝに、ます〳〵正しい完成の途に向ひ、同時に社會鬪爭におけるカムレエドの統一意義を強めつゝあります、併し三氏に本當に期待すべきはむしろ今日以後にありませう。

□ 鷹谷信行

僕は何より先づ最初にこの事を企てゝくれた「種蒔き社」の人々に感謝する。それほど僕たち若いもの、とりもなほさずプロレタリア藝術運動に參加するもの、間には、悉くといつてもいひほどに三氏の鮮明なる態度に尊敬を持つものが多いのであるから。

今日まで長い間、時代の先驅者を以て自任するブルヂョア藝術家達の壓迫と嘲笑を控へ乍らもプロレタリア階級成長を確く信じてブルヂョア藝術に對抗することを忘れなかつた三氏の苦鬪に僕たち若いものは負ふことの多いとのことを忘れてはならない。

□ 小沼英一

藝術家なんてお上品な上草履をぬぎすてて昔から藁じをはいて居る三氏は本當に生れたまゝのいい人達だ、死ぬまで藁じをぬがぬ人達だ、若い者共、まねるがいい、

上草履をはきたがる奴、藁じをぬぎたがる奴は、俺等の陣營からたたき出せ。小川さんも中村さんも秋田さんもそう思つて居るだらう。

□水守龜之助

一番よく知つてゐるのは小川さん、それから秋田さん、中村さんといふ順序でせう。無論、いろんな點から不滿ももつてゐますが、人として、態度としての三氏に敬意をもつてゐることは云ふ迄もありません。三氏とも初めてあつたのは十數年前のことです。中村さんは矢來(?)に居られた時尋ねたことがあります。小川秋田二氏とは始終會ひました。そして、秋田さんからは人生に對する正しい考へ方を、小川さんから火の如く燃ゆる正義感をいつとはなく學んでゐるやうに思ひます。しかし、それは二氏が左傾的な思想の持ち主になられる以前のことですが、その今日あるは極めて當然のことだと思ひます。中村さんも昔からちよい〳〵讀んだ作品を思ひ浮べると素顔からいつてもソシヤリストになられるのは必然の經路だつたでせう。三氏とも最早四十以上で、新人たる平林君や、青野君なぞとは少し違つた印象をうけとるやうに思ひますが、いつ迄も若々しいところを失はずにゐられるのは一大いに慶賀すべきことです。私は今、一註文なぞは申しません、唯いつ迄も新らしい時代の味方であつてほしいと思ふのみであります。

□新居格

尖鋭な近代感覺の持主として、不合理に痛憤する反抗精神の所有者として三氏に敬意を拂つてゐます。

□神近市子

小川氏と秋田氏とは性格の上に作物の上に全く異つた個性を持つて居られるにも拘らず、何だか『萬年青年』とでも名づけたい不思議な若さを持たれる點で共通したところがあります。この若さは善良、率直、單純など〻同じ藝術の母體から發するもので、藝術家にとつて貴重なものであることは勿論ですが、同時に微笑を禁じられない程度の意識した感情の誇張を感じさせることがま〻あります。そこに行くと中村氏は人間として作家としてズッと練れたところがあるやうで、人に異敬の念を起させます。前の二氏に對してのやうに親しみを感ずることはできませんが、然しこの異敬の念は親しみよりもつと貴重なものであるのかも知れません。

□失名氏

小川未明氏、秋田雨雀氏、中村吉藏氏いづれも私の深く尊敬する方々です。

中村氏、秋田氏にはまだ拜眉の折を得ませんが小川氏には數回お目にか〻つて至純な風格に打たれたことがあります。

小川氏について私の感ずるのはその彈力です、常に飛躍する熱情です、一つは肉體からも來るのでせうが僕などは全くそれを尊くも美しくも思つてゐます。

□柴田勝衛

幾月も〳〵つゞけざまに、奥さんが質屋通ひをされて、漸く暮との繼ぎをつけて來られた小川未明氏の昔を知る私、月收三圓五十錢——煙草錢にもならぬ時ですら、泰然自若として押し通して來られた秋田雨雀氏を知る私、また曾ては雜誌社にすら、中々その原稿を享け容れられ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すその爲めに近年まで始終苦慮されて來た中村吉藏氏を知る私は、今回お社の企てを伺つて心から欣ばずにをられません。この操守堅固な三人の作家を、わたくし共はいろ／＼な意味で永久に記憶したいものです。

□ 若月保治

小川未明氏のたゆまないコツ／＼と進んでゆく態度は敬服の外ありません。

秋田雨雀氏のゆつたりとした生活態度は實に好きです。さうした態度や人類生活の大きな點をねらつた思想が、氏の作品につれにたつぷりと盛られてゐるのには、私の甚しく快とするところで、徒らに内容の貧弱な作品の跋扈する時代に、ありがたくさへ思ひます。

中村吉藏氏の作品にも、生活革命の思想のたつぷり現はれてゐるものには動かされるところが少くありません、殊に氏が常に其時代並に時代の潮流の傾向を達觀しつゝ筆をとられてゐるとが、顯しく目だつてゐるのを感心してやみません。

□ 白鳥省吾

小川未明氏とは大正前後にお遇ひしたのであつて、十三四年になります、私が處女詩集「世界の一人」を出した時に「新潮」に卒先して書いて激勵してくれたことを覺えてゐます。氏の作物は私がまだ中學の四年時代に隆文館から「新聲」といふ雜誌が出てゐる時分（明治三十九年）にその雜誌や文庫などで讀み、また「愁人」といふ短篇集を愛讀したのが初まりで、今なほ昨日のやうに新しい記憶にあります。それには坪内博士の推奬の序文がついてゐましたが、清新なロマンチシズムに全く魅惑されたものでした、あれからもう廿年に近いが小川氏はいつも若いのだ。氏の作物は端的に人に迫るところがあり良き意味に於ける廿年一日の如しといふべきもので、冷靜なリアリズムの作家といふよりも、いつまでも熱烈さを失はないロマンテックの作家として尊敬してゐます。詩のわかる唯一の小說家、寧ろ本當の詩人といふ感じがいつも致します。

秋田雨雀氏とは明治四十三年頃の「劇と詩」時代からの舊知で、最も敬愛する作家の一人です。純眞なその性情が今日のやうな生活態度を取られてゐるのは極めて自然のことゝ思ひますが、最近あまり力作を見うけられないのを遺憾にも思ひます。「土地」三部作の様なものをもつと見せて欲しいと思ひます、大いに寡作な藝術的良心の強い氏が、あまり作を見せないことは當然と考へられますが寂しく感ぜぬでもありません。いつも若くいつも熱烈な二氏に就てなほ言ひたいことがありますがもう書く所がなくなりました

□ 吉江喬松

一、中村氏の全力を擧げて正面から打當つて行くやうな態度――時には力が入りすぎて稍々誇張になりさうな點もあれどいつも正道を離れず精進せらるゝ姿は餘人をも奮ひ立たせるに足りる尊敬すべき態度です、地力の人です。

一、秋田君は明敏な理知性と理解力とを備えた人自己革命の意識を擴大し、一般化し、それを最も明確に言動で表現する人、私の最も敬愛してゐる一人です。

一、小川君の不老の童心は眞の意味の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

詩人の素質を示してゐます、流動し背反すれど、その眞純の本質は最も確かで、最も正しい。この人の本質の表現の前では何んでも尊敬と首肯とを禁じ得ません。三氏の存在とその表現は現代の光りです。

□石渡山達

小軀童顔の雨雀さんと巨軀童顔の未明さんと、どちらも少年時代から好きな人達でした。本當に藝術家らしい雨雀氏、正直な人の好さそうな未明氏、それがちつとも大家ぶらないで民衆と手を握り、社會運動の爲にたゝれたことに心から敬意を表さずにはゐられません。更にます〳〵今の態度を強め深めて藝術と社會のため勇猛精進せられて、我々の先輩としてしつかり足跡を印して載きたいと希望してます。吉藏氏についても藤井君を通じて一寸知つてゐるだけですが、しつかりした何か仕事をしそうな方だと思ひます。劇の方だけでも、大いに革命的な功績をたてゝ載きたいものです。

□尾崎士郎

私が直接に知つてゐるのは未明氏だけです。秋田、中村兩氏に對して文壇の先輩としての通り一遍の挨拶以外に、特にその『人』について言ふべき資格がありません。私は未明氏の作品は昔から好きです。しかしその『人』は一層好きです。飾りでない戰鬪的な熱情をその應待の態度の中から見出します。未明氏は子供のやうな苦勞人です。と言つてゆつくり話をしたといふやうな機會はたつた一度しかありませんが……。秋田氏にも、中村氏にもそのうち會へるだらうと思ひます。

□伊藤貴麿

私は此の三人の先輩の方々とは顏を合せば挨拶する位のものですが、皆人間として立派な親しみ易い方々だと思ひます。中で秋田氏とは道連れになつて二三度話した事があります。私は今輕卒に三氏の藝術などを論じたくありませんが、私が小説を書くせいか、三氏のうち小川氏のものに多く愛着を感じます、

□伊福部隆輝

小川氏にしても、秋田氏にしても、自己の正義と信ずるところに眞劍に進まうとされる、その純眞なる詩人的性格は、私の常に敬慕してゐるところであります。二氏の所論など、その具體的案件には賛成出來ないやうな場合にも、なほ且つ、その精神その眞實が、私共の胸をうつことは度々であります。

□細井和喜藏

小川さんと秋田さんには度々お目にかかりましたが、中村さんには、幸いまだお目にかゝつたことがござゐません。作品を通じて見た三氏に對して私は無論尊敬します。又おあいした小川、秋田の兩氏には非常に親切な人だと思つて感謝して居ります。もつとくわしい感想がのべたいのですが、近頃私は魂の狂亂にばかり打ちなやまされてゐますから、さつぱり言ふことが纒まりません。

私は私の力の無いことを知りました。紡績工場に墮眠を貪つてゐた一民衆の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私、迚もシヤチホコ立して氣張つてもプロ文壇とやらへ出て僕達紡績工の宣傳をすることが出來ない、其處で私は大家にお願ひするのだ。どうぞ不思議な私達の頭へ、しつくりと共鳴するやうな作品を一つなりと書いて、私の意思を活かして下さい。材料を提供いたしませうから。

□小川未明のこと

小島德彌

小川さんのことは、可なり長く「新潮」に書き、また「都」にも書きましたが、私が多少でも文學に就て語り得られるやうになつたのは、まつたく小川さんのお陰だと思つてゐます。雜文を書いたり、訪問記者をしたりして、やつこらやと早稻田の文科を五年ほど學びましたが、片上さんからロシヤ語をすこし敎へられただけのことで、自分を刺戟して異れるやうなものは何もありませんでした。それにひきかへて、その間に、小川さんが私へ與へられた激勵と敎訓と忠告と好意と苦言と叱撃を忘れることは出來ません。私は小川さんの前で涙を流したことが二三度あるのを憶えてゐます。小川さんに十日も逢はないと、一年も逢はないやうな氣がします。

小川さんの文壇や思想界への業績といふやうなことは、私の如きが、今更喋々するまでもありますまい。文壇生活二十年、常に赤貧と戰ひながら、正義、人道のために健鬪して止まなかつた小川さんの姿を顧ると、涙がこぼれます。小川さんは、××が來るまではこの不都合な社會からまだまだ苦しめられるでせう。××が來ても、小川さんはなほ苦しまねばならんでせう。小川さんはいつまでも戰ひます、自己に對して、社會に對して彼は戰はないでゐられない人です、さうした意味で、小川さんは詩人です、詩的情熱の持主です。

小川さんは大人になることの嫌ひな子供です、文壇の大家に祭り上げられることなぞ悅びません、彼は常に新進作家でゐたい人です。

□加藤一夫

僕は中村吉藏氏とは殆んど一面識もないと云つてい丶方で、從つて、時々氏の作を讀んだ以上氏について知るところがありません。しかし秋田小川の二君には僕が文壇の空氣にふれ初めた時分からの知合ひであります。秋田君は早くから宗敎的な一面を持ち、社會主義的傾向をもつた人でしたが、中にも此の淸楚に安じて獨自の途を步むで居るところはたしかにカアペンタアあたりを思ひ出さしめます。小川君は不斷の感激に生きて居る人のやうです。銳敏なる直覺でもつて、また、純眞な人道的精神でもつて、プロレタリアのために戰つて來たことを尊敬しなければならぬと思ひます。

メーデー印象記

前田河廣一郎

雲

はじめは、のんきさうに、ぽつかり日が射してゐた。

しかし、雲はあつた。地平線を遠巻きにした、石灰色の、どんよりした雲はあつた。雨の氣は始終大氣につきまとつてゐた。手摑みにして投げつけたほどの日光は、まもなく、蠟燭のやうに消えた。雲は、音のない海のやうに、地平線いつぱいにするすると伸びて行つて、四面から犇と地殼を壓迫した。思ひもよらぬ驟雨が、ばらばらと落ちて、無目的にうつた榴散彈のやうに散らばつた。と、思ふと、沛然とした、機關銃的な連射に變つた。雨が霽ると、氣休めの日光が、また、ほんのりと濡れた土の背を濕めた。が、氣壓はひたひたと、どこまでも、乾ききらぬ地面につきまとふて居つた。……五月一日の天氣は、こんな風だつた。この天候の下で、雲に壓迫され、雨に亂射されたメーディが行はれた。

一つの死

その朝、小川未明、島中雄三の二氏が誘ふてくれた。洲崎行の電車をとつた。小さな百足虫のやうな、がたぴしの電車だつた。車掌も運轉士も、別に資本主義などといふことは苦にもしてゐさうにもない顔をして、けだるさうに、百足

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

虫のやうな乘物に飽き飽きした動作で働いてゐた。乘客はいつぱいだつた。いづれ、江戸川邊から毎朝、切符の割引時刻の過ぎた頃乘りあはせる客だから、下町の何々ビルデングや、何々本舗とかいふ種類の建築に通ふクラークや俗吏にちがひない。どれもどれも、生存に疲れた顔をしてゐる。

『今日はメーデイだ、ちと活々せんか！』

誰かが、よし大聲をあげて、かう叫んだところが、彼等のうちから、どれほどの人數が、正直な勞働者のやうに、にこにこ笑つて、

『俺も行く！』

と答へて、飛び出て來るかは疑問だ。

飯田橋のガードを潜ると、まだるつこい曲線をゑがいた軌道の上に、電車は、つんのめるやうに急止した。同じ方向に薙ぎ倒された群集は、ブレーキが、き、ぎ、ぎ――と線路を嚙んで、ばたりと車體を吸ひつけると共に、反動で、また反對の方へよろよろと倒れかかつた。何とも知れぬ呻吟が、揉まれた乘客の臟腑から洩れる。

『轢いた、轢いた！』

乘客は總立ちになつた。小川君は、

『電車を出ろ、出ろ！』

と叫んだ。

救助綱にひつからまつた一輛のタイヤの歪んだ自轉車があつた。飛白の着物が見える。車掌、運轉士、巡査、群集、乘客――その亂雜な人檣のまん中に、至極平凡な、どの小僧でもが着る飛白の着物が、ちらりと見える。

『いつも、ここでやられるんだよ。』

蒼い顔をした老人が、店から飛び出して、獨語つた。人が割れた。――運轉士に搔きあげられて、黃ろな土ぼこりを浴びた、くたくたな軀が、血、血、血、……べろべろと、口から鼻から顎から、鮮々しい血を吐いて、人形のやうな二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本の足を投げ出してゐる。飛白の着物が、それだつたのだ。

乘客は、一人一人、その小僧の、まだどこかに生命の蠢めいてゐる顏を見て、何かに嫌惡を感じたやうな表情をして傍を向いた。見てならぬものを目擊した、自分たちの眼を呪ふやうな、はげしい苦痛が、誰の顏にも悶えてゐた。自分は、小僧が、電車に衝のめされて大地にぐわ——んと顏を打あてた瞬間の、極度の痛みを想像しながら、電車を見あげた。百足虫のやうな電車は、急に巨大な、角張つた、一つ眼の怪物に見えた。さう云へば、その電車は、一向ベルを鳴らさなかつた。自分たちは、そこから引返へして、外濠線をとつた。日常見慣れてゐる、次第によつては鼻先でせせら嗤つてゐる、馬鹿々々しい電車の如きも、恐ろしいことをするものだ。

演壇

それが、メーディの朝だつたのだ。二時間後に、自分は、芝公園に立つてゐた。ただ立つてゐたのではない。他人の心臓が、自分の兩肱にどきりどきりと皷動してゐた。ものを云ふときの他人の肺の力が、自分の背髓にひびえた。夥しい勞働者の筋肉の、びくびく張り切つた力で動いてゐる、まつ只中に、自分は押したり押返へされたりして、他動的に動いて居つたのだ。ここで、山の手から、仔細らしい、顏を運んで、頭に何か一定見をでも持つてゐるやうな自意識に包まれたままやつて來た『俺』は、泡粒ほどの存在に還へつた。

壇上に幾人も幾人もの辯士が立つた。はじめの二三人は氣の毒だ。謂はば機械の試運轉だ。聽衆に熱がない。暗示が利かない。メーディの說明に恐ろしく廻り諄くなる。概念の力說に力瘤を入れる。が、………じことだ。一人立ち、一人斃れ、また一人これに代るごとに、群集が熱して來る。共同戰線が、期せずして出來あがつて居る。鮮人勞働者諸君の演說中止に於て、示威演說は白熱化した。牡牛のやうな警官の金モール肩章が、ぬーと人墻の上に聳える。蒼黃ろい肥つた、眼鏡をひからした顏だ。

『こいつらを、ぶつ仆すんだッ！』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

壇上からサーベルの列を指呼する辯士もある。文化警官だ、拳銃だけは打たなかつた。憎惡と……………が、糸で手繰りよせたやうに、曠ろい原つぱの、中心點へだんだん集中して來た。鮮人有志が、交々立たうとしては引擦り卸ろされる。……………、……………として跳梁してゐるやうだ。

『やれ、やれ!』

飛びあがる。引卸ろされる。また、飛びあがる。また、引擦られる。同じ動作の反覆が、單調を嫌ふ…………に働きかける。怒、叫喚、罵倒、絕叫――どろどろと氷河のやうに群集は流れた。………、……、……………………演壇の一と際をめがけて、群集は進んだ。旗が、地震に揉まれる木のやうに動搖した。『生產權の護得』――その一つにはかう書いてあつた。

木ッ葉のやうな演壇は、上を占領した人々の重みに、一方に受けた群衆の加壓に、めりめりとひしげて、べたりと大地へ墮ちた。

移動地獄

その後、一時間ばかりで、自分は『出版從業員組合』の組合旗の下に、移動地獄の間に挾まれて、町の上を行列してゐた。

黃な粉のやうな土埃が、彼足、一萬人からの草鞋、草履、下駄、足駄、靴、ゴム靴の底に煽られて、町一面にぼ――つと煙つて見えた。

『………………………………!』

『………………………………!』

さういふ歌が、十町もむかうの先頭隊から、順々に口から口へ傳はつて、自分たちの口から、また、後方に響いて行く。歌の底には、凛とした、制禦された、階級闘爭の精神が動いてゐる。その精神を構成する群集の一つ一つを切離し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てみたら、至極微弱の一職工、一勞働者の、蹶起力のない、衝動的になり勝ちな反抗力に過ぎないだらう。しかし、どうだらう。こんなこともあつたのだ。

雨に洗はれた行列が、警視廳の前へさしかかつた時だ。

新しい組合として、また、何かほかの理由から、眼をつけられてゐた出版從業員組合が、まさしく日比谷の交叉點を過ぎつた瞬間、列外から眼をひからしてゐた私服が、やにはに組合員の一人の隙を窺がつて、鷲のやうな翼で彼を撲つた。そこは自分たちが、かねがね、

『氣をつけろ！』

と警戒しあつてゐた場所だつた。

がむしやらにかぶりついた私服が、臂力を籠めて、同志の一人を列から引剝がさうとした途端、手と手、腕と腕を、錠前のやうに組みあはせてゐた我々は、

『離すな、離すな！』

と叫んで、その同志の五體を、幾十本かの腕で、みしと抑へた。忽ち三四人の刑事が、餌食を狙つて集つた。筋張つた。節くれだつた、血管の膨らんだ、毛むくぢやらの、力を籠めたあらゆる腕が、同志の頸に、肩に、胴に、四方八方からしがみついて、思ひ思ひの方向に彼の體を嚙切らうとして爭つた。

行列は進まねばならぬ。

我々は、犧牲者と刑事とを取圍んだまま、わつしよい、わつしよい、と叫んで、幾度かサイドウオークの石角に緩急なカーヴをゑがいて、進み進んだ。團結の力は强かつた。

蒼い、殺氣立つた顏をして、口惜しさうに刑事が、喰らひついた餌食から、牙を鳴らして遠退いたのは、ブルジョア文化の精粹を秘めた帝劇、その前あたりであつた。

『萬歲！』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自分たちは、小兒のやうに、半ば笑ひ、半ば涙ぐむで、絶叫した。

批判

自分は淋病の爲めに、大手町で拔けた。それでも、彼是六時間から便所へ行くことが出來なかつたのだ。それにつけても、行列の行程が長過ぎたと思はれる。芝公園から上野まで——その間、要所々々で、移動地獄が、ほしいままに、行列の精衞を、暴力をもつて引つこ拔くことが出來る。せめて、途中散會でもしてしまへば、反へつて面白いのだが。歌の文句が、すこし難晦な嫌ひがあつた。わかりいい文句で、はつきり徹に意味の歌が欲かつた。メーディの精神が、もつともつと勞働者に浸潤してあつて欲しい。こつちが行列してる處を、横柄な顔をして、電車でへし折るやうに横ぎる勞働者を見ると、むかむかつと來る。宣傳ビラが、極度に快走する自動車で播かれてもよかつたと思ふ。最後に一つ、文化警察は、勞働者の暴力を排發するために、層倍の……、……、……を發揮してもよからう。（了）

□防援會成る。 諸者諸君は既に新聞で御承知の事と思ふが、こんど防援會が設立された。その趣旨は、勞働運動、小作運動、社會運動等、すべて無産階級戰に傷付いた犧牲者及びその家族を防衞、救援、慰安するにある。かゝる企ては無産階級運動の進行につれて、是非なくてはならぬもので寧ろ設立されたのが遲かつたと言つてもよいのである。この際、全日本の目醒めたる人にはこの運動に參加し、一樣に無産階級戰の陣列につく義務がある。この會の規則によると、會員は入會金として一時十圓を納付し、年々會費三圓を納めることになつてゐる。その外に會では「防援券」を發行するが、これは小額寄附（五錢以上）の受領證である。この受領證は封緘などに利用の出來る淸楚なものである。讀者諸君は。これからいろんな會合などの場合、「防援券」を手にした戰士に合ふであらう。その時には、互に相助けてこの戰ひに加つてやつて欲しい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ブルジョアカルトの組織と本質

赤根葭男

（一）

プロレツトカルトが大きな壓迫と迫害を受け乍ら、僅に荊棘の道を歩んでゐるのに反し、ブルジョアカルトは全能の資本主義勢力の庇護の下に、完全なる組織と方法とを以て、ブルジョア社會の存續とプロレタリア社會の抑壓とにつくしてゐる。總ての民衆は、成人となる迄に一通りの敎養をすまして、秀才であると鈍才であるとを問はず、不拔のブルジョア意識、感情を植え付けられて世に出る。それからある者は奴隷の境遇に甘んじ（さう甘んずべく敎へられた。）ある者は搾取の機關になつて立派に働き、そうしてブルジョア社會の部署を形成するのである。社會生活その物は、一層そのブルジョア意識を助長し、盲目的な慾望の暗闇に人々を走らせる。かくして全民衆は、容易に覺醒の機會を持たない。彼等自身の內から眼覺める事は殆んどないのである。ブルジョアカルトの組織は一見して解る。その總てがそうなのである。然しその本質はどうであるか。吾等はプロレタリヤの正義を振り翳してこの膨大な化物に迫る前に、その正體を知つて置く必要がある。

（二）

ブルジョアカルトはその家庭に於て始められる。人間の生活の第一歩に於て、行くべき方向は決定されるのである。その親たちが教育に熱心であればある程、子供の生活に干渉して、因襲と傳統の型に押込め、偏狹な個人主義道徳の產衣を着せる。小學校へ上る前に、子供は煩鎖な家庭生活と僅の交友とによつて、一人前の我利々々亡者になり、利己的排他的、非協同的な感情、意志の持主となつてゐる。

更に次は學校教育である。莫大な費用と、整然たる組織と、無際限な時間と勞力とを以て、愈々本式に仕事が始められるのだ。總ての子供は小兒期から少年期まで、六年乃至八年の間、就學を强制されてゐる。その間彼等は、無意味な規律規則を强ひられ、個性の芽生えを踏みにぢられ、貯金を奬勵され、陸軍大將や海軍大將を尊敬させられ、金持を有難がらせられ。虛僞と虛飾を習はせられる。服從、謝恩、勇氣・沈着、堪忍、それらのお題目が、悪酒的な效果を以て繰返される。更に他の學課では、利己的な、打算的な計算を仕込まれる。非藝術的な、ブルジョア常識的な文章を讀ませられ、征服者讃美の歷史を習はせられ、軍隊の出店式な、規律一點張の體操に引張り廻される。

總てこれらは人間生來の潑溂たる精神に反して行はれるのである。そこに無理があり、不自然がある。併しそれは、ブルジョアカルトの目的であり、その爲の執行機關であつて、そこの執行官達は理非に拘らずさうせざるを得ないのである。そこで子供等は、當然虐げられ、個性を撲滅される。六ヶ年の教育を終つた時には、彼等は人間としての力を完全に引拔かれ、その後に醜惡な資本主義讃美の臓物を詰込まれて、工場に、商店に、田園に送り出される。それでブルジョアカルトの第一階段を終るのである。

（三）

次に、中等學校、並に專門學校、大學である。こゝへ來て益々資本主義の特質を表はし、醜惡な部面を露骨にさらけ出す。教育は特權となり、民衆は除外されてしまふ。無產者たちは特權階級の子等の學習の設備と費用の爲に、既に自分等の上に搾取を開始されてゐる。多くは先輩資本家たちの庇護と恩惠的援助を受けて成立した學問賣買業者は、阿諛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と僞善にその正體をくらましながら、仕入れた學問の切賣をやつてゐる。そうして金を儲ける。小ブルジョア達は、高遠な搾取の原理と方法、緻密鋭利な手段、自己欺瞞の道德學探究に餘念もない。

こゝではおもに支配者としての人格養成に力を注がれ、從つてブルジョアカルトの最高部門をなすのである。その組織其他は最も注意して形成され、美麗な堂々たる外觀と、灼爛たる內容とを以て、ブルジョア文化の誇りをなしてゐるそこに無産者の涙と血と汗とは吸ひ寄せられ、そこから鋭利な搾取の機械となつて、再び無産者の身邊に戻つて行くのである。

（四）

以上は正統な組織的教育機關である。そこでは一方ブルジョア社會組織の承認、特權階級に對する奉仕道德を仕込まれ、他方には、資本主義社會の繁榮と存續の爲の積極的方策を授けられる。民衆は自分等の教育を受けることが出來ないのである。無産者の子弟は害毒を受ける計りである。然も彼等が僅計り受けるこの教育にも、恩惠的意義が附加されなければならない。

こうした教育機關は、一方資本主義社會の敵たる共産主義社會主義に對して、抑壓の手段を取ることに於ても怠らない。民衆の正しい自覺、それを避けさせる爲に彼等は有ゆる惡名をこれらの思想に冠して、嫌惡の情を起させやうとしてゐる。小中學の教師たち彼等でさへも血眼になつて、赤い思想の芽生えを搜し出し、それを揉み消して手柄にしやうとしてゐる。彼等の身を以つて危險思想に對する防塞をなしてゐるのである。

（五）

この外に、有ゆる場所、有ゆる機會に於いて施される教化事業は、みんなブルジョアカルトを目的として行はれるのである。それはブルジョア社會組織の承認と、それに對する服說、奉仕を意味する事に於て變りはない。各地方に、實

業補習學校といふものがある。多く、無產階級の子弟を集めて、小學校だけしか學び得ないそれらの人達に、恩惠的に多少殘つてゐる彼等の生氣を去勢して、全然無氣力な人間にする役目をして居る。之が多くの、青年教育と呼ばれるもので、御用青年團と手を取つて可成り有力な役目を勤めてゐるのである。

次に、敎化事業の一つとして、通俗講演會と言ふのが行はれる。ブルヂョアカルトの色彩を多少でも帶びた講演會が、非常な迫害を受けるのに對して、之はそれの對抗策として、完全なる設備のもとに、最も有效に行はれるのである。そこで一時間何十圓の報酬を受けてゐる御用學者は、巧妙なる詭辯によつて盲目同然な民衆を誘惑し、社會主義呪咀の呪文をさへ授けるのである。そこで益々用意周當に、遺憾なくブルカルトの威力は發揮される。

以上の外、總ての宗教、藝術、行政機關、木ッ葉官吏から、監獄の教悔師に至るまで、意識的に、無意識的に、悉くブルジョアカルトの翼をなしてゐる。

（六）

この膨大な組織は實に驚嘆に値する。その中心勢力である各種學校は、その敎育方法の機械的なことに於て、又、大量生產的なことに於て、資本主義生產組織と甚だよく似てゐるのである。一方に於いては、入學難によつて學問的失業者が都市に滿ち、心ならずも怠惰を强ひられてゐる點まで、現時の經濟狀態と相通じてゐる。さうして資本主義がその內部に崩壞の素因を持つてゐる如く、之等ブルジョアカルトの組織もそれ自身の內に於て腐敗し、その權威を失墜しつゝあるのである。

由來ブルジョアカルトの諸組織は、その出發に於て、譎詐、欺瞞を本としてゐる。敎師自身、生活の爲めに止むなく乾燥な敎義を繰返してゐるのである。彼等に一片の愛の熱情もなく、眞理に對する燃える感激もなく、その多くが不死身的な無感覺は生活體であるからして、その敎育作用も同樣無神經な效果の薄弱なものであるのに不思議はない。ブルジョアカルトはその組織の整然たるに比して、その實質に於て、その所期の效果を收めることが極めて少いのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

これはブロカルトの前進に取つて、意外の幸と言はなければならない。

然して所謂被教育者たちはどうであるか。彼等は教師の欺瞞を知つて居る。けれども餘りに多くの欺瞞をその社會に於て見續けてゐる彼等は、それを敢て不思議と思はない。そうしてその間から、彼等自身の處世方法を、教師達が教へるとは別の方法で習得するのである。それは彼等の經驗に、欺瞞の科學常識を通じたもので、一層頑冥な偏狹な排他的利己主義、更に徹底した金權崇拜思想である。

ブルジョアカルト當面の目的は失敗に歸するが、人々は間接にその補助を受けて、處世の哲理を形作り、彼等自身その社會組織をさへ蹂躙する程のものとなる。こゝに於いて一層救はれ難くなるのである。

（七）

斯くブルジョアカルトは各方面に於て、權威を失墜しつゝある。しかしそこから、プロレツトカルトへの唯一の道が遮斷されてゐるのである。全民衆はそのよるべき信條を失つた。彼等は新社會の黎明に接しない。さうしてたゞ惰性的に、無理想無主義な本能に任せた頽廢的な生活と、一層甚しい獸慾の爭ひとを續けて行くに過ぎない。無產階級の子弟もこの間にあつて、一層悲慘に彼等の役目を繼續して行かうとしてゐる。彼等は自分自身の正義を踏みにぢり、……………、………………に盲目的に仕へるべく仕込まれる。そうして彼等のあるものは國家の干城となり　警察官吏となつて、………………、………………。

プロレタリアートがその子弟等に、自分達の正義を敎へることは當然なことである。然しあらゆる敎育機關がブルジョアの手にある限り、それは望んでも得られない。今やその機關は、內部に於て崩壞し出したのだ。この時に於て、プロレタリアはその組織と方策を備へて、誤られたる敎養からその子弟等を救ひ出さねばならない。……の後に敎育がある。

……の前にも敎育がある。ブルジョアカルトの實質の空虛に乘じて、吾等は大いに逆襲しやう。勿論吾等は學校を持

たない。田野、職場、その總てが吾等の機關である。プロレットカルトの眞實な努力は、反對派の空虛と欺瞞に對して百倍の效果を持つものである。

勇往せよ。邁進せよ。唯一の明白な眞理を振翳して、…………………………、…………………………………………………。

無産階級の藝術と人道

支配階級としての資本階級は、「社會的同化作用」に於て、久しき期間に亘つて相當の効果を收めた。しかしながら、勞働階級の利害關係と支配階級のそれとが、根本的に相容れないものである限りは、勞働階級が自階級の地位に眼ざめるだけづつ、それはそれ自身で、自階級の「集團的安全」の意識から、資本階級が行なふ所謂「社會同化作用」に反抗することを學び、從つてこの立場からまた、資本階級から課せられた法律や道德律にも挑戰する傾向に赴くのである。そしてそれと同じ傾向が藝術といふ樣なものの方面にさへも現はれてゐるのは、注意す可き現象である。此頃我國の評論界に於ける一つの流行題目となつてゐる「第四階級の藝術」の叫びの如きは、その一例として眺めて極めて興味あるものである。ただ玆に一言附け加へて置きたいことは、勞働階級の「集團的安全」の意識から出た思想上の習慣が、「階級的差別撤廢」といふ理想の形式を取つて現はれてゐるといふ一事である。かう云ふ理想は、現狀維持の努力に汲々たる資本階級の間から産れて來る筈のものでない。それだけに、それは、その個々の場合に於ける實際上の効果から離れて、それを單に一個の理想として見る時は、資本階級の理想よりは、所謂「人道主義」の名で呼ばれて居る槪念に一歩近く歩み寄つて居るものだといふことが出來るのである。（大山郁夫氏著「政治の社會的基礎」の一節）

ロシヤの小さき同志を救へ

相ついで起れる Catastrophes――戰爭、封鎖、飢饉――は罪のない何十萬の兒童を家なしに、孤子にし、飢ゑさせ健康を破壞した。嗚呼それは何人の罪であつたか、僕たちは餘りによくそれを知つてゐる！

戰爭――歷史上最初の無產階級國家をあの資本主義諸政府の犬であるコルチヤツク、デニキン、ウランゲル、セメヨノフ etc, etc の魔手から救はんと邊彊に出征した父親たちの多くは遂ひに再び還らなかつた。

封鎖――『犬』たちの失敗を知つた資本主義諸政府の次に採るべき手段はこの封鎖であつた。彼等こそ文明を破壞すべき惡魔ではなかつた。

飢饉――それは餘りによく知られてゐる。旱魃、內亂、封鎖、わが子のため一片のパンの殼でも探し求めんと家を彷ひ出た、飢ゑきつた父親たちは遂ひに還つてこなかつた。

諸君よ、プロレタリアの子たちよ！ 何十萬といふ新時代の子――ロシア革命の相續者 は今や滅亡に瀕してゐるのだ。もしもソビエツトロシアにして生存すべきものであるならば この兒童たち亦生存すべきものではないか。未來は兒童たちの肩にかゝつてゐる！ これら無數の兒童たちを收容し、これに家と食物と養育を與へるのは、僕たちプロレタリアの義務でなくて何んであるか。

僕たちはこの仕事のために諸君の時間と金とを要求する。第一、諸君自ら一人の孤兒を收容せよ、第二、他の私人或は家族に一人の孤子を收容する樣に說服せよ、第三、諸君の勞働組合諸君の友愛的、社會相、慈善的團體として一團の孤子を收容する樣に說服せよ諸君よ。

諸君は、卽刻この仕事を始めればならない。

憐れな孤獨な、飢ゑたる兒童たちは今や暖き椅子と、一片のパンを諸君に嘆願してゐるではないか。諸君よ、諸君の金は奇蹟を齎らすであらう！

ロシア兒童救濟具體案

一、ロシア舊貴族の邸宅を改築して各戶に百人宛の兒童を收容し、十戶を a children, scolony と稱して病院を一つ附屬せよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二、兒童一人當りの設備費が約十圓、一人當り一ヶ月雜費維持費約四圓である。
三、本社は第一期計畫として兒童五人一ヶ年維持に從ふ總費二百九十圓である。
（御寄附下さつた方には一々受領證を差上げませぬ代りに本誌上で報告します。——責任者）

規定

一、兒童五人設備費並に一年維持費合計二百九十圓を以て第一回送金とします。
二、寄附金額には制限はありません。
三、送金方法は成るべく振替を利用されること。
四、設備費に幾何、維持費に幾何と分けたい方はその旨明記されること。
五、毎月一人當り維持費（四圓）を出す餘裕のない方は毎月半人分（二圓）又は四半分人分（一圓）或はそれ以下でも毎月つづいて送金下さればこの救濟運動の眞精神に合致するでせう。併し毎月一定額送金して下さる方はそれを豫約する旨を附け加へて下さること。送金は向ふ一年内を以て第一期とす。
六、この救濟運動を全國化する一方法として地方の讀者諸君が中心となつて兒童の二人でも三人でも救濟する會を作つて頂きたいこと。それと本社とは連絡をつけること。
七、用件は種蒔き社ロシア兒童救濟照會して下さい。

一九二三年五月

東京府下西巢鴨字宮中二一一七
（振替口座東京五九三八七）

種蒔き社
責任者 平林初之輔
監督者 秋田雨雀
有島武郎

寄附者芳名第四回報告（六月五日〆切）

金三十圓	有島武郎（東京）
金二圓（毎月）	寄集社（同）
金二十錢	武田勝賴公圖書館（磐城）
金二十錢	世界平等分配主義天目山莊（同）
金二十錢	武者宗十郎（同）
金二十錢	武者惣榮（同）
金十錢	源昌恒（同）
金十錢	放屁浪人（同）
金壹圓	川端繁次郎（大阪）
金五拾錢	渡邊勝美（門司）
金壹圓	丸山專之助（横濱）
金五十錢	柳瀬正夢（東京）
金壹圓	村田先烈（秋田）
金五十錢	古野丁一郎（東京）
小計	三十七圓五十錢
總計	九十圓三十錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大地の匂ひ

小牧近江

藤森成吉氏はこの程人文社から「大地の匂ひ」といふ手ごろな感想集を出された。集むるところ、小品、旅行雜筆、對話、それから古い手紙といふもので、その大部分は幾多の文藝欄その他で發表されたものだ。

僕はある意味で小川未明氏の感想を小説以上に好く。それと同意味で藤森氏の小品を好く。小川氏のそれとこれとは流れる心が同じであつても、そこに性格の異つた相異點がある。そこにふたりを對照していはれない味の面白味があるのだ。

小川氏のには頭を讀む人の堅い胸にぶつつけて角力を取るやうな直接の力がある。藤森氏には丸いふわッとした輕いユーモアがある。それでて讀む人の胸を押へてのがさない。どつちかといふと小川氏の方が男性的で、藤森氏の方が女性的だ。でゐて、どつちにも共通點のないではない。例へば小品この「若き人」の最後のところの「ねむつてゐる女性は、あのペン軸が宙に一ぺん飛びあがつた時、痙攣的に唇をピリピリと動かしただけで、相變らずしづかにねむりの底に落ちてゐる。

そとは月の光にひたされて、夜はしんと靜かである。」

といつた氣持は小川氏の中にも充分窺はれそうなものだ。だが、なぜ藤森氏にして、「痙攣的にピリピリと動かしただけで」などと書かれたのだらう。本來の成吉氏なら「痙攣的に少しばかり唇をぴりッと動かしただけで」と書きそうなところだがなどと遂ひ思はせた。

「樹」に對する感想も美しい。それから「行啓」のユーモアなどとたしかに壇上の藤森成吉氏をおもはせるもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ。それは…………………………、
…………………………………………
……………………………………。

その最後の言葉が振るつてる。

「昔々ある王子さまがありました、馬や牛はみんなどこかへ行つて了ふ旅行をなさいますと、その王子樣が或る時ひ、犬は殺され……(小牧註それだけは嘘でせう。)……」

そんな馬鹿げた童話は、勿論…………………………………………………、それだけ、私はそれが早く昔の童話になあれと祈るものである。」と。

だんだん讀んで行くうちに、「雨」の中で、「机上の雜誌など手あたり仕題よむ、「種蒔く人」の創刊號が、出ると直ぐ發賣禁止になつたと云ふことが恐ろしく腹が立つ、もしこれほどの文字が悪いと云ふなら、いつそ日本にある社會主義の本をみんな焚いて了つたらどうだらう。」

といふ文句が眼にとまつた。それは二年前「時事」に書かれたものであるが、今もつとそれが僕らにとつて懐しいものだ。

僕は「大地の匂ひ」を雨の日よろこんで讀んだ。

宮島の月夜

杢太

宮島の月夜は藤森氏の近著「大地の匂ひ」の中で最も好きなものだ。淡い青い月夜の旅籠の感じがする。形にはめたり又、作者が多少の僞を書く爲に苦心する小説よりも或る場合に於いては、かゝる小品集が面白い。

藤森氏の「大地の匂ひ」は、むら〳〵と重苦しい土地の匂ひでなくて、美しい匂ひである。雀がとんだり、電線が光つたりする匂ひである。藤森氏獨得の二三寸地を離れ、若かも地を讃美した作品許りである。藤森氏は

輕くおどけて「それからとんぼの尻に稈(わら)すべを挿すと、よろよろしながら空を舞つてくよ、それから蠅をつかまへて、みんな羽を捥つちまうと、まるで黒い米粒のやうになつて、こッつん、こツつんと、疊の上へ跳びあがるよ」などと言つてゐる。それから又小年との對話で、

「昨日はどこへ遊びに行つたの」

「屁がくさいよ」

「そんな汚いこと云ふもんぢやない、茶化しちやアいけない、子供は、そんな權利はない筈だ、まじめに子供らしく云つて御覽」

「ぢやア話さないや」

こんな子もある。

と書かれてある。氏が反動主義者に與ふの一文を草せられた所以も又此の

子供はそんな權利はない筈だ。

と言はれた境地と同じだと思ふ。その他種蒔きに出た「月」の一文も添えられてある。最後に對話篇の中の一文句を引いて筆をおこう。

肺病になると人が戀しくなる、戀にかかると人が嫌ひになる。

およしなさいよ、でたらめばッかし。

人が嫌ひになると、初めてほんとうに人が好きになれるそうだ。

……………。

圓鳥會第一回展覽會

松本弘二

一

今や人々よ、藝術は幾多の變轉を經て、幾多のイズムを乗り越えて此處まで來た。はるばるやつて來た、人々よ。——けれども見たまへ、此處は果てしなき曠野だ。けれども聴きたまへ、此處は何等の約束もないのだ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

有り難いことに。——歴史博物館はない、美術館もない、——そして約束を乘り越えた、ぢかの生活があるばかりだ。

古典よりはるばるやつて來た。Xへ。けれども又地殼は朽ちる、土は老ひる。しかし、吾等はやはり吾等だ。時は動く、その速力に安座して、古典よりはるばるXへつゝしめよ、吾等は墓地を探す愚な旅人ではない筈だ。

(下略)

二

これは圓鳥會第一回展覽會の、目錄の卷頭に書かれた序言の一節である。

僕達の圓鳥會は、昨年の十月頃から計畫されて、今年一月に成立を發表した。僕達は何よりも先づ保主々義者ではない。のみならず、唯單なる意味に於ての外國崇拜者ではない。外國への追隨を離れて、獨自の發展に轉じるといふ人々を以て組織されたものである。僕達の藝術上の起點は、飽くまで生活に根ざしてゐる。而も、僕等の生活は、今や希望に燃えつゝあるところの階級のものである。頽廢した、腐亂した、末期階級の生活ではない。清新で、慎み深くて、一面しよんぼりとしたみすぼらしさの中に、僕達の姿があるのである。僕達は着飾つてはゐない。

三

第一回展覽會に於て、僕が深く尊敬をはらつた作家に小林德三郎君がゐる。「女兒」「鳩」「風景」の三點——色彩の澁く、それでゐてぼやけてゐるのでなく凛としてゐると、尙又內面的に考へた場合の作者の心境などを考へる時に、僕は實に慕はしく思つた。同じく凛とした中でも、森田恒友氏の或る一面の如く、何人にも懷みを投げてくれるものであるが、岸田劉生氏の中に藏されてゐるやうな、人に嫌氣を催ほさせるやうな冷たさではない。

次は萬鐵五郎君だ。その風景、靜物共に好きなものばかりだ。「風景一」、「風景四」は殊に好きである。

中村祐美君の三點、これは兒島善三郎君等と同じく僕などゝは最もかけ離れてゐる。中村君は心性の最もやさしさを現はすに於て勝れてゐるが、今少し物の見方が深くなつてくれたらといふ感がある。その點兒島君とも同じだが、兒島君の進境は最近いちじるしいものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

野村勇君はまだ二十歳にも足らぬ青年である。淺くはあるが、その作風ののび〳〵してゐるところに將來が認められる。久本信男君の三點では、孰れも東洋畫ど西洋畫の特質を、露骨に接近させやうとしてゐる。生な色彩でありながら、淺薄になつてゐないところはいゝと思ふ。

虫明柏太君は、この頃殆んど日本畫的洋畫となり切つて來た。覗ひどころもはつきりして來た。僕は「春先き」に一番面白味を感ずる。秋田義一、天花寺延朝、淸水七太郎・平塚運一、前田好愛、二階堂榮の諸君、共にそれ〴〵の面白味を見せられた。殊に平塚君の小品で、「兵營」、「東宮御所附近」は版畫的面白味に於て、獨自のものと思つた。

鈴木亞夫君では風景をとる。「伊豆風景」は殊によい。埴が、「女と噴水」、「春の女」は鈴木君の惡趣味だと思ふ。埴原久和代君のでは、「支那服の女」の力作よりも、「窓から」といふ珍らしい風景に興味を持つた。加藤利美君の行き方は僕は好きだ。が、あの作品に澁さが加はつたならば、より一層の效果があるだらうと思ふ。

眞田久吉君の繪は、純眞さに於て何時も敬服してゐる何處まで素直だらう。惜しむらくは力が足りない。川上政一君では、「津田浪風景一」をとる。林武君では、二點の風景を愛する。

中出三也君は、最近描き方に著しく變化が來たやうである。冷々とした感じを覗つてゐるやうだが、その點では「居留地」の方が成功してゐる。渡邊三郎君の進歩も目立つて來た。違つた意味で、中出君と同じ行き方ののに、木下義謙君がゐる。中出君の繪は一見穢ないやうであるが、男の肖像のやうなものでも、何處かに典雅なところがある。木下君では、一見してその典雅さが分明するばかりで、同質とまでは行かぬが、類似のものはある。僕は「Y氏夫妻」像を好む。

工藤信太郎、恩地孝四郎兩君、及び外遊中の小島善太郎、前田寬治兩君共に、それ〴〵特色を發揮してゐて面白い。

只、僕として同人諸君への希望は、又僕自身もその意味に於て進まうと考へてゐるが、生活に根ざして、しつかり進んで貰ひ度いことである。總べて自由だが、この點は忘れては不可い。――こんなことでも忘れ勝であつたならば、僕達は資本家共の下等趣味に乘じられるかも知れない。上代の畫家共が、宗敎に又權力に乘じられたやうに。

井汲清治氏の名論

海野榮

五月十七日の讀賣新聞紙上で、井汲青治氏は「五月の雜誌に新しい名前をたづねて」の一節中に、次の樣な名論を吐かれた。「金子洋文、安藤一雄、中西伊之助、加藤由藏、吉田金重等の作家にとつて、人生の生活は全然外的機制の束縛の下に行はれてゐる。而して外的機制乃至社會組織を變へさへすれば、人間の生活は容易になるものだと信じてゐる。爲めに社會組織の變革に對して努力する筈である。希望に輝いて未來に進む筈である。隨つてどことなく理想主義的精神に燃えてゐなければならない。然るに出發點は唯物史觀である。自然主義的人生觀がある。だからそこに混線が生じてくるのは理の當然であると言はなければならない。」井汲氏は以上の諸作家が人間生活は外的機制に束縛されてゐるから、社會組織を變へさへすれば、人間生活が容易になると信じてゐる、と斷定せられた。中西其他の諸氏が果して以上の樣な意見を持たれてゐるかどうか、私は知らない。故に私は一個人としての私の意見を述べやう。

私も人間生活が外的機制の束縛の下に營まれて居ることを信じてゐる。換言すれば、吾々の生活は常にその時代々々の經濟的政治的機制と環境の如何に依つて左右せられるものだと、信じてゐる。それは吾々が社會の一成員として經濟生活を營まねばならない以上、必然的結果なのである。逆に言ふと、吾々の日常生活は、吾々が生息してゐる時代の經濟的環境を無視して、考へることが出來ないと言ふのである。然し私は井汲氏の言はれる樣に「外的機制乃至社會組織」を單に變へさへすれば、人間生活が容易になるとは信じてゐない。社會組織が如何に變化しやうとも、ブルジョアジーが統治權を掌握してゐる限り、現在の無產階級の生活には何等の變化もない筈だ。…………………………、…………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

……………………………………………………………、…………………………………、……………………………………、…………………………………………………。我國に普選が實施せられやうと、立憲君主制が米國式の共和制に變化しやうと、吾々の生活は容易にならない。吾々の生活を容易にしやう爲には、其處に一つの條件が必要である。現在經濟的にも政治的にも壓迫せられてゐる……………………………………、………………………………………………………………………………。斯してこそ、其處に初めて無產階級は解放せられ、現在よりより以上幸福な人間らしい生活を吾々は送り得ると、私は信じてゐる。

恐らく井汲氏も以上の樣な意味で「社會組織の變革」なる言葉を用ひられたのだ、ただ時間と餘地がなかつた爲に斯の如く簡略せられたのだ、と此處では善意に解釋して置かふ。私が井汲氏の名論を批評するに至つた動機はこの不注意に對してではなく、それ以後に出て來る文章に對してであるからだ。卽ち、「隨つて……」のくだりだ。

この文章を讀んだ時「おや〳〵、慶應大學敎授ともあらうものが、一體どうしたと言ふのだい」と私は思つた。

最初にお斷りして置かふ。今のプロ作家は希望に輝いて未來に進んでゐると言はんよりも、寧ろ反感に輝いてブルジョアジーに突進しゐる——隨つて——理想主義的精神に燃えてゐると言ふより、寧ろ彼等は憎惡に燃えてゐると言ふ方が至當であると言ふことだ。第一彼等の作品を見て見れば、それが良く覺るではないか。ユートピアを幻想に浮べ、その雰圍氣に恍惚となつてゐるやうな自己陶醉的作品を、未だ嘗てプロ作家と稱する人が書いたことがあるだらうか。彼等の描く主人公は大抵階級意識に醒めた無產者である。そして階級意識を鼓吹し、團結の要を說き、共同戰線の必要を說いてゐる。今日のプロ作家の使命は無產者にブルジアージに對する反感と憎惡を挑發して、彼等の中に階級意識を涵養する處にあるので、彼等にユートピアの描き方を敎へることではない…………は被搾取階級の理想に依つて、決行せられるのではなく、被搾取階級の搾取階級に對する憎惡と反感に依つて行はれるからだ。勿論彼等の反抗や憎惡の根底には、彼等の勝利に對する確信が閃めいてゐる。それを指して理想主義的精神と呼びたいなら、呼んでも一向に差支へはない。………………………………………………………、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

……………………………………………。…・今の場合憎悪が第一で理想は第二だと言て眞理を良く記憶してゐてもらいたいものだ。

井汲氏はプロ作家が如何に理想主義的精神に燃えてゐるかを、非常な論理的不正確さを持つて説明した後に「然るに（彼等の）出發點は唯物史觀である。自然主義的人生觀である。だから其處に混線が生じて來るのは理の當然だ」と如何にも論破し了せた積りで、傲然と斷定せられた。これに據ると井汲氏は唯物史觀即自然主義的人生觀だと主張せられるらしい。唯物史觀は科學的な經濟的歷史觀で、決して人生觀と言つた樣な宗敎味のあるものじやない筈だ。哲學上の唯物論と唯物史觀と混同されては甚だ困る。唯物論なら自然主義的人生觀とも見られるだらうが、唯物史觀は經濟學的に歷史を解釋したものなのだ。「社會の進化は人間の精神的要素に依つて決定せられるものではない。經濟的要素が社會進化の決定的要素だ」違ふ言ふのが唯物史觀なのだ。然し決して人間の意力を全々否定した學說ではないのだ。ただ經濟的要素が決定的だと言ふ迄の話なのである。卽ち、人間生活に必要な物質の生産方法と、其の生産物の分配方法とが、司法行政其他一切の社會的上部構造の根底となり、社會と相對峙する階級に分裂せしめる動困となる。其處で反目が起り、道德的理想が生れ、階級鬪爭が熾烈になり、……起り、新社會が生れる。歷史は斯くの如き行程を繰返して無階級の社會に迄で進む。現在は資本階級と無產階級が相對立してゐる。然しそれは永久的のものではない。資本主義は其自身の法則に依つて、其自身を破滅に導く無產階級を增大さす、斯くして資本階級は歷史の必然的運命に依つて、當然無產階級に取つて代らるべきだ。「無產階級よ。希望に輝くがよい。お前達は歷史の必然的歸結として必ず歸放せられるだらう」唯物史觀は無產階級にさう敎へて吳れるのである。唯物史觀を肯定することに依つて、初めて吾々は無產階級の解放を確信し得るのである。換言すれば、無產階級の懷く理想は唯物史觀を肯定することに依つて初めて明瞭に理解し得るのだ。無產者はこの歷史觀を基礎としてのみ理想に輝いた人生觀を確立し得るのだ。

こんなことは、私達の耳に胼胝が出來る程聞かされたソシアリザムのエー・ビー・イー・なのだ。井汲敎授よ。「プロ作家連は唯物史觀に發足して、而も尙ほ理想立議的精

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

心を持つてゐるから予盾してゐる。予盾してゐる許りか何等の新形式の創造もない、影が薄くて、叫で壁許り高い」だと。一體どんなお顏、、てそんなことが言へるのだ。おつけで顔を洗つてこいと言いたくなる。聞く所に據ると君は頭にテカ〱油を附けて、教壇から初年生に「アー　ベー　セー」を教へてゐるとの話だ。自分の方がエー・ビー・シーを學んだらどんなものだ。

最後に井汲氏は結構な決論を示じて袂下つた。曰く、プロ作家は（一）社會主義的固定概念の衣を棄て▲藝術上に新形式を創造するか（二）それとも蝸牛角上的文壇の爭ひをあらめて、社會主義の實行をしやうと、街頭に「……」を樹立するか、二者何れかを撰ばねばならぬ。

教授はプロ作家が藝術上に新内容と新形式を與へる爲めに、……宣傳をしてゐることを知らぬのだらう。又社會主義の實行は街頭に「……」を樹立することだと考へてゐるらしい。いや世は樣々なものだ。或人は社會運動は警官と喧嘩することだと考へ、或人は…………爆彈を抛げたり亂射したりすることだと思ひ、井汲氏は往來に……を立てることだと思つてゐる。文學がプロレットカルト運動に取つて極めて有利な武器であるなどとは夢にもお考へにならないのだらう。私達には往來に立てられた「……」よりも、九尺二間の長屋住居のお神樣が頭上に掲げたアカハタの方がはるかに意味深重に見へ、又遙かに革命的に見へるのだけれど。

握り合つた手の力だ

陀田勘助

さあ兩手を握り合つて　…………！
俺等の上に寢そべつてゐる奴等を…………　…………！…………

……………………………………

さあ、手を握り合つて
地球の上に帯を堅くしめやう
堅い心臓の集合の上に櫻實(さくらんぼ)が生(な)つた
ピラミットが砂漠の上に築かれた
エッヘル塔も多數の人々の手の力だ。
俺等の望むものは圖能の力の勝利の後に來る堅く握つた
手は力だ。

………………………

さあ手を握り合つゝ…………………！

無題

…………………………………………
…………！
…………？
…………！
……………

その顔を歪めるとささよく知つてゐる。

倦怠！

倦怠！
…………………？
憂鬱の飽滿だ、金かな！　女かな！
煙草が一箱ホケットに、ゴールデンバットだ俺は拳をか
ためただが
…………………？
…………………！　………！
…………！
……………！
………………
………！　………！
………！　………！　………！
…………………………！

世界欄

ロシア共産黨とバルビユス

△

吾人「プラウダ」文藝欄共産主義寄稿者は新同志アンリ・バルビユスが吾が戰闘機關誌「プロウダ」文藝欄の陣列に加はる日を以て祝祭日として祝ふであらう。

With communist greeting,

「プラウダ」文藝欄寄稿者一同

△

プロレタリア作家團體「十月」は貴家の共産黨入黨を心から歡迎します。

吾々は、文藝家たるものが勞働者の目的に奉仕せんとするに當つてはどうしてもプロレタリアの陣列に加つて闘ふに若くはないことを特に熱心に強調するものであります。勞働階級の政黨から『獨立』といふことは殆んど確かに政黨よりの分離を意味するものであります、分離それはその中に未來を胎んでゐるあの文化の滋養分からの分離であります。吾々プロレタリア作家共産主義作家は、文藝界に於ける黨の仕事をなしてゐるのであります。そして黨（即ち勞働階級の目的）にして吾々に他のある地位に就かんことを要求する場合、吾々はその命令に服從すべきであります。第一に共産主義であります。他の一切は第二次的のものであります。

吾々は貴下を勞働階級政黨の一闘志として歡迎します。

吾々は貴下をプロレタリア文藝戰線に於ける勞働階級のチヤムピオンとして挨拶します。

「プロレタリア作家團體十月」

同人消息

▲平林初之輔、早稻田の教師で働いてゐる。體の方も殆んど全快に近い。

▲今野賢三、秋田魁新報へ長篇「暗き時代」連載中。

▲金子洋文、今野君と一しよに秋田へ。處女作集「地獄」が出た。

▲佐々木孝丸、エスペラントの講演の爲仙臺より北海道へ。六月上旬歸京の筈。

▲前田河廣一郎、相變らず元氣。

△松本弘二、代々木富ヶ谷一五二七へ引越した。景色のいい所で繪の勉強をやる筈。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△村松正俊、神經衰弱でよわつてゐる。

△松本淳三、前橋方面へ旅行中の所、五月末歸京、村松君などと一しよの詩の雜誌「鎖」の創刊號が出た。

△佐野袈裟美。プロカルで勉强中。

△津田光造。相變らず達者。

△上野虎雄。一身上で困ることがあると言つてゐる。

△抑瀨正夢。映畫雜誌を發行の爲め日活撮映部へしきりに出入してゐる。

△山川亮。關西、北陸へ旅行中のところ、六月上旬歸京。

△小牧近江。外務省のアカを落して手足をのばしてゐる。最近銀河堂から處女文集「友と別る」を出す。「クラルテ」の賣行きはすばらしいといふ。

△中西伊之助、六月下旬出獄の筈。入獄間際に書いた「農夫喜兵衛の死」が出た。中西君へ慰問品などを贈る方があれば喜んで取次ぎます。

△青野季吉、諸方面に活動してゐる。最近銀河堂から飜譯「青ざめた馬」を出す筈。

『生社の解散』 三月に前田河、松本淳三兩氏と共に、名古屋へ文藝講演に行つたことは未だに記憶に新である。地方に於て、卒先して新興プロレタリヤ藝術の講演會を開いた名古屋の生社にわれ／＼は非常に感激したのである。しかもいろ／＼な困難と壓迫があつたにかゝわらずとにかく見事に豫定どほり決行したのであつた。その勇氣と熱誠をわれ／＼は心から喜んだ。ところが何事だ。われ／＼が歸つたあとで、生社に非常に壓迫の手がのびた。單なる文藝青年の團體で、『生』といふ文藝雜誌を發行してゐるといふにすぎないものを、生同人の解散、と『生』の發行を止すことを强要された。

われ／＼が行つた爲めではないだらうと思ふものゝ、とにかく、われ／＼は眞面目な『生』同人に非常に氣の毒な思ひをしてゐるのだ。しかし、生社同人諸君に言ひたい。諸君の勞は決して無駄になりはしなかつたといふことを。かならず、種は蒔かれた筈である。

生社同人のみならず、すべてのプロレタリヤ文藝青年は現實を、ハツキリと見きわめなければならない。そして、あくまでも、あくまでも戰はなければならない。（賢三）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聳人欄

○血と火の洗禮

田中獏人

どんな不秩序がやつて來ようと
どんな殿堂が崩れ出そうと
おれらはすこしも恐れはせぬ

どんな偶像が破壊しようと
爪の垢ほども悲しみはせぬ
そればかりか
どんな財寶の盜まれやうと
おれに何のかゝはりが
あらうぞ

どんな貴人の斃されろうと
安價な涙を誰れが流たう
どんなレデイの汚されようと

誰れが嘆かう　誰れが悔まう

一切は奪はれてゐ俺らの現實だ
自由のない身に何が尊い
神の祈りに何の甲斐がある
のこるはやつぱり奴隷の鐵鎖だ

……………………
……、……………………
……………
……………………………。

出勤前

K生

茶漬に野菜で朝めしな
すました己はがつかりした
古机の前に座つたまゝ
錆た時計とにらみつゝ
出勤時間にもうすぐだ
今日も又大嫌ひな監督の
顏を見なけりやならぬのだ
いやにゑな層な社長の態度
一々文句を連れる社員達

奴等の顔に硫酸でも
ぶつかけてやりたい
もし、かけたらどうなるだろう
煙が出るか火が出るか
眞赤な血潮も出るだろう
噫々何だか氣か晴々しだ
しかし工場迄の五町の道は
二椀より食はない
おれの體にはこたゑる
刻々とキザむ時計の針
おれは何だか頭痛がする
考へれば考へる程
おれの良心は資本家に
こき使われるのを許し層もない
働けば働く程奴等は肥ゑる
おれ等は反對に弱るのだ
大抵氣長な勞働者でも
もういゝかげん目をさましても良かろう
狼の樣なブル共に
おとなしくすれば馬鹿にされる
……………………
………
……………………
……………………

……………………
……………
……………
……………

病苦と借金

赤大根

雪は路に厚く鎖してゐる。
二月の寒い凍る樣な北風やけに外面を暴れ廻つてゐる。マローズの神が今こそはと暴威を揮ふ。俺の部屋には相變らず火が消へてゐる永遠に消へてゐる。炭籠には塵業一つだつて殘つて居な。
いプロレタリアの寂寥した、冷たい部屋、嗚呼と一度は氣が挫け阻む。
……………………
……、………
………………………
……、………………。
人生は苦しいものだ。若い時には苦勞せにゃならぬ、今にいゝ事があると、當にもならぬ寝言を吐かす。
誰が未來が解るものか
苦しむ者が皆豪くなつたり、
幸福になれるなら、今の勞働者は
皆幸福になつてゐるだろう、

下手な男振りをするな。
俺は到頭又、マローズの紳樣の俘虜となつた。
こん〳〵と咳喉が出る。
去年、二月の初めに江戸川公園に、
れた時に引いた風邪めか又頭を擡や始めた樣だ、氣管支の邊が
猛烈に痛む、
併し俺は絕對に死なぬ、
ブルヂョアの肥へ太つた、ビール樽共が蒼くなつて、膝下に降
參するのを見る
迄は死ねない。
何んで死ねるものか、

…………………………………

誰一人看護する者も居ない。
冷い寂然とした中の汚ない蒲團の中
に蜿き苦しむ、
俺の傍に同居するのは、リロップの奴か
タラカンの奴だ、
そのんな者は一日も早く、のいて
吳れた方がいゝ。
少し病氣が薄るいだから藥を買ふ金をと
借金に出掛ける
ブルヂョア馬鹿息子、汝フオップス共よ、
何に拔かすか、
淫賣(フーレン)に遣る金や莨や寫眞に遣ふ金はあつても、此己に融通が
出來ぬのか「私達は親や兄掛りの身ですから金が自由になりま
せんから」とまた常套語を吐く、
それだから、お前達の云ふ事は一から十迄間違つてゐるのだ。
よくもそんな痴けた言葉が吐けたものだ、
「自分で遣つてゐるのなら、出來ますが」と其んな奴等に出來
た例がない。まして自分が獨りでやる場合出來る例がない。
親や兄が、それも、ブルヂョアだから、賴むのだ、お前達が自
分で遣つてゐるのなら此俺は、義理にも賴ぬよ。判つたか、
實際、お前達の云ふ事は論理が成立つてゐない。
お前達獨りの瘠腕、瘠歷で何が出來る。
胸の中は、沸き返る樣だ、
憤怒の血潮が全身に急激にめぐる、
奴等に千萬返、說いても無駄だ、
馬の耳に念佛だ、馬耳東風だ、
お前達は學問が出來なくても、
親の光りが知らぬか、顯職、要職に坐る事が出來るのだ、
ふにゃふにゃめフォップ共。
併し何時もお前達の成功、出世の踏段になつては居ないぞ。
おい、氣をつけろ。

…………………………………

…………………………………

平常のふさぎの蟲の奴もすぢ毛を振つてすつこんだ樣だ、
壓せられ虐げられたものの叫を聞け。
おぢ毛ずに聞け。

……………………………、
何處からともなく、茫とした耳朶を打つて、天來の聲の樣に、
「……………………、……………、……………………、
………………………、
………………………、
…………………………」
ふと我に還ろ、我は悄然と、しほ〳〵東京名物の泥濘田路を足を引づり〳〵、黄昏時の寂光の中を歩いてゐた。

——一九二三、二、十五日——

期待はこれ！

冷忍生

ただ眠たいばかりだ
自分と人の周圍があまり
に平和だからだ。
新しき戰よ！
新しき善き戰よ！
起れ
起れ
天災の如くに起れかし
鷄が高らかに曉をなく
あまりに
各地と各人とが
盲從的に平和だからだ。
大いなる悲愴よ
…………
……………
……
……………………………。

——一一、一〇、一二——

くたばつちまへ！

場倉順吉

「くたばつちまへ！
くたばつちまへ！」
私たち勞働者はみんなかう言ふのです
それ他に言ふと同時に自分にもどなりつけろ言葉です
なんと言ふ悲しいメランコリアな言葉だらう
おそらくこの言葉ほどじめじめした陰欝な貧民窟を呪はしい
毒氣を吐いてゐるものはありますまい

彼が疲れて歸つてくると
五六人の子供がけんかをやらかす　わめく　なく
腹がへつてゐる　嬶はまだ歸つてない　風はない
(彼等の妻は皆夫を助けて働いてゐるのです)
おそらく晩飯は腐つた樣な漬物で茶漬けだらう

寒むい寒むい火はない　子供がぎやんぎやんとうなる
神經と言ふ神經はかなぐり立つて　眼がくらくらとする
彼はこんな時にそう言ふのです
「くたばつちまへ！」と

豚小屋の樣な家　憂欝でいたいたしいほど荒寥で　なんの味
もない　子供がわななく嬶がわめく火の車の樣な　地獄の樣
な家
そとはただ彼を搾取の上に搾取する　告血鬼の巣にすぎないの
です
酒をのむ　ずぶろくのんで女を買ひに行く　嬶に渡す飯代が
ない　小供も飢え　嬶も飢え　女郎の身體に喰ひつくほど　し
やぶりついて
「くたばつちまへ！」
彼はこんな時にそう言ふのです

「くたばつちまへ！」
なんと言ふそれは虚無的な言葉でせう
だがそれは恐ろしい毒氣を吐いてもうもうとしてゐます
今に　それが凝結し一つの力となり　下崩えるおそろしい原始
的な力となつて
最後に一切台切に「くればつちまへ！」と言ふときが來るのです
「くたばつちまへ！」なんと言ふ憂鬱な　時に怒となり時に悲
しい笑ひとなる　不思議な悲しい言葉でせう

虐げられし青年よ

鹿島篤

何が故に抑壓されてゐるのか
萠え出で人とする新芽を
虐げられし青年よ

警察の御用を務めて
十字街頭の交通整理に加はること
は決して兄弟等の使命ではない
もう抑へられて默つてはゐられない筈だ

若き兄弟等は
常に時代の先驅者となり
前衛となるべき使命を有してゐるのだ
覺めよ若き兄弟

彼等（キャツ）は一番力のある兄弟を
酒と女とで混亂させようとしてゐる
彼等は兄弟等の團結の力を恐れてゐる
そこだ決してだまされぬな

俺等の同じ兄弟は
工場に血と汗を流して
生きんが爲めに闘つてゐる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「クラルテ」の會二つ

日本の藝術家、思想家の多くが反動勢力の忠實な手先となつて、民衆にむかつて架空な高遠な眞理をいかに雄辯に語るかといふことに余念のない今日、すでに書齋裡の眞理の探究を捨てゝしまつた僕たちの畏敬して止まない、フランスの共產主義者にして藝術家なるアンリ・バルビュスの名著「クラルテ」が、同人の小牧近江、佐々木孝丸の好適任者の手でなつた三年間の苦心の名譯を日頃「種蒔く人」に好意を持つてくれる叢文閣から出版されたのは、「種蒔く人」創刊當時から僕たちの間に待ちのぞんでゐた丈に僕たちの悅びは大いなるものである。

年若い同志の集りである「クラルテ」會が主催となつて五月七日午后七時から神田駿河台に名高い中央佛敎會館で「クラルテ」出版紀念講演會が行はれた。「種蒔き」社からは佐々木、小牧のふたりが應援にゆくことを忘れなかつた。

全市に限なく撒かれたビラに心をおどらせて百有余の聽衆はひし〳〵定刻前に詰めかけた。

佐々木孝丸の挨拶がおはつて講演者有島武郎、吉江喬松、藤森成吉、秋田雨雀の諸氏の眞摯な熱烈な御講演は聽衆の胸に靜かに深く響いて行つた。解散を豫想した例の忠實な、無邪氣な、殘酷な人達は、新しく眞理の光に動いてゆかふとする聽衆の平穩無事の姿に微笑を唇頭に浮べてたゞ呆然としてゐた。しかし、僕たちの眼には、僕たちの運動と共に人々の胸に直射してゆく「クラルテ」の精神、インターナショナルの精神の强さをはつきり聽衆に見ることができた。「クラルテ」の新しき友達!!! 僕たちとすつかり手を握りあつて進むふではないか。

唯物史觀と藝術　有島武郎
パリであつたアンリバルビュスの印象　吉江喬松
讀後感　藤森成吉
雜感　秋田雨雀
散會十時　（會費三十錢）

翌八日夜同所樓上にて、秋田雨雀、藤本成吉、吉江喬松、長谷川如是閑、柴田勝衞、小川未明、千葉龜雄、諸氏と「種蒔く人」同人の發起で「クラルテ」懇話會が盛大に行はれた。秋田雨雀、藤森成吉、堺利彥、新居格、柴田勝衞、千葉龜雄、吉江喬松、細田民樹、中條百合子、三津木貞子、山內義雄、相田隆太郎、小島德彌、山內房吉、勝田香月四十八諸氏の出席があつて席上小沼英一の挨拶と今野賢三、松本淳三、中條百合子、堺利彥、新居格、千葉龜雄、柴田柴衞、諸氏の虹のごとき氣焰につれて歡談いたるところに湧いた。集まれる若き鬪士小牧近江の「種蒔く人」の進んで來た道の苦難に耳を傾けるとともに佐々木孝丸の「クラルア」の話に深く感激をおぼえた。

同志の强き結合をアンリ・バルビュルスに感謝することを忘れない同人たちは佐々木孝丸、小牧近江の手で直ちに打電した。

紀念撮影をおえて十時散會したのであるが、夜の街頭に僕たちの愛するイータナショナルの歌を高らかに歌つてゆく同志の姿を多ふく見受けた。（信行）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雪を踏んで（一幕）

佐野袈裟美

人物

順一　二十五歳
とみ　その母　五十歳
みね　その妹　二十歳

場面

田舎の町の片隅に見るやうな淋しい住み荒された古ぼけた家、右手によつて大きな爐が切つてある。煤けた天井から自在鍵がつるされて、それに鍋がかゝつてゐる。赤い火が鍋の下をチョロ〳〵なめてゐる。薄暗い電燈が部屋の中を物淋しく照らしてゐる。右手奥に勝手の方へ通ふ障子。その邊に戸棚が置かれてある。左手に入口の戸がある。奥は次の間へ通ずる襖。爐をかこんでみねと母が坐つてゐる。

母　もう日がくれたのかね。
みね　え、もうくれましたよ。
母　夕方といふものは、本當にいやなものだ。
みね　どうして？

母　どうしてつて。私は夕方になると、から墓の中へでも引き込まれるやうに淋しくてしようがないんだよ。

みね　また兄さんのことを考へてゐるのでせう？

母　それは順一のことは一時も忘れられやしないがね。

みね　だけれど、お母さん、さうくよ〳〵なさらないで、おいでなさいよ。どうせなるやうにしかならないんですからね。

母　私がこんなに心配してゐることを思つたら、あんな馬鹿な眞似は出來ない筈なんだがね。どうしてまたそんな悪い考へを起すやうになつたものだか、私にはさつぱり分らない。あれはおとなしい素直な子だつたのに。

みね　兄さんは正直ない丶人なんです。きつと何かの間違ひなんですよ。兄さんが監獄へ入るやうな悪い人だとは、どうしても私には思へないんですもの。今にみんな分ることだわ。近所の人達はいろ〳〵蔭口を言つてゐるやうだけれど、きつとそれ見たことかと言ひ返してやれる時があるに違ひないわ。私は兄さんを何處迄も信じてゐるのよ。國賊だなんて、本當に人を馬鹿にしてゐるわ。兄さんがそんな悪いことをしたのでせうか。そんなことがあるもんか。

母　それでも、あれも永いこと旅にゐたのだから、大分變つてしまつたのかもしれない。もう今度遇つても自分の子のやうな氣がしないやうになつてゐることだと私は思ふがね。私はいろ〳〵な望みをあれ一人にかけてゐたのだけれど何にもかも皆あだになつてしまつたのだらうかね。

みね　さうですね、兄さんも家を出てから、もう四年になりますね。手紙では少しもくはしいことを言つて寄越さないのだから、どんな風にくらしてゐたものだか、ちつとも分らない。それに仕事も隨分變へたやうだし、落ち付いて一つ所にゐたこともないのですからね。東京、大阪、京都、名古屋、神戸、岡山、金澤――と、手紙の來るたびにいつも居所が變つてゐるんだもの。きつと悪い友達にさそひ込まれて墮落してしまつたんだわ。

母　どうも私にもそんな風に思はれてならない。何をしてゐるのか、少しも親のところへ知らせてよこさないつてこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

母　があるものかね。親に言へないやうなことをしてゐたに違ひないんだ。

みね　でも、可哀想だわ。今年の冬は寒さが格別ひどいのに、金澤の監獄になんか入れられてゐるんだもの。金澤つてやつぱり寒いところでせうね。きつと夜なんか寒くて眠られやしないわ。兄さんは寒がりだつたのに。

母（涙をそつと拭いて）あれも可哀想なのさ。父親に早く死に別れたばかりに、子供の時から苦勞して育つて來たんだからね。不仕合せな家には、どこ迄も不仕合せがつゞくんだよ。もう何も思ふまい。思ふまい。……雪はまだ降つてゐるかね。

みね、立ち上つて入口の戸をあける。風に吹かれて雪がチラ〳〵と舞ひ込む。

みね　まだ盛んに降つてゐますよ。もう五六寸積つてゐるわ。今夜は降りますよ、お母さん。一尺位積るかもしれないわね。

母　私にはもう何の望みもなくなりましたよ。生きて行くのがつらい。お父さんがなくなつてから、たゞあの子一人を何とか物にしようと思つて、お嫁の口がいくつもあつたのを、皆ことわつて後家を通して來たのにね。

みね入口の戸をしめて、爐の側へ來て坐る。

みね　お父さんがなくなつてから、もう何年になりますかね。

母　お前の六つの時だから、今年はお前が二十歳と、もう十五年目になるのかね。その間私はお前達二人を育てるより外に、何の樂しみもなかつたのだからね。

みね　本當に貧乏ばかりして來ましたわね。

母　お前にも苦勞させたね。

遠くで犬が悲しさうに吠える。

みね　いゝえ、苦勞なんか何でもありませんよ。働き甲斐のあることなら、いくら働いたつて何んでもありませんわ。たゞあてもなく働いてゐるつてことは、本當につらいのよ。兄さんの爲めと思つて働いてゐたうちは、私本當に力强

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かつたわ。だけれど、いまは……何だかたよりないやうな氣がしてならない。

母　そりや、さうだね。私も本當に精が拔けてしまつた。

雪の重みで、ポキリと枯枝の折れる音がする。

みね　御飯にしませう、お母さん。

母　あゝ。

みね、鍋を下して、そのあとへ鐵瓶をかける。勝手の方から膳をはこんで來て食事をはじめる。しばらくは默つたまゝ食べつゞける。

みね　お母さん、小池さんはいよ〳〵おことわりになりましたよ。

母　何をね？

みね、何をつて、お母さんきまつてゐるぢやありませんか。私達の結婚の約束をですよ。

母　え、どうして？

みね　お母さんにお話しようと、前から思つてゐたのだけれど、つひ言ひにくかつたから、默つてゐたんだわ。

母　私もこの頃、小池さんが、ちつともお見えにならないから少し變だと思つてゐたけれど、さうかね、やつぱり順一のことからかね。

みね　え、さうなんですよ。國家の法律を犯して、監獄へ入るやうなそんな無鐵砲なことをする危險な男の妹を妻にすることは出來ないんですつて。小學校の先生ですからね、そりや無理もないわ。

母　いくら小學校の先生だからつて、さうたやすく約束を破るつてことがあるもんか。

みね　いゝえ、却つていゝんですよ。その位のことでぐらつくやうなら、どうせ末の見込みがないんだから、私もうすつかりあきらめたわ。本當にさつぱりしてしまつた。

母　でも、何だか馬鹿にされたやうで、くやしいぢやないか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

みね　え、そりやくやしいわ。だけれど、私の方であんな人もう何とも思つてゐやしないんだから。あんな人のこと思ひ出すも、いやになつたわ。

母　お前がさうして諦めてゐるなら、それでいゝけれどね。一體に世間では私達をのけものにしようとするのぢやないかね。

みね　除け者にするならしていゝわ。構ふことがあるもんですか。私達二人はいつ迄もかうしてくらして行きませうよ。

食事が終つて、みねは器物を勝手の方へ持ちはこんで行く。

外の方で、醉ひどれの聲で大きく怒鳴る。「おーい、提灯だ。提灯を何處へやつた。畜生！　こんな雪に歩けるか。俺はナポレオンだぞ。世界を征服するんだ。俺の足は馬鹿に重いな。畜生！」

みね、淋しく笑ひながら爐傍へもどつて坐る。

母　金治さんだね。また醉つぱらつて歸つて來て。あんな風でも困つたものだ。金さへあれば飲んでしまうんだから。あんな人の女房になつても浮ぶ瀬がありやしない。

みね　兄さんよりは、三つ四つ年上なのにね。いまだに身が持てないで、あゝして飲んだくれてばかりゐて。それに喧嘩好きで、飲みさへすりや誰にでも喧嘩を吹きかけるんだつて言ひますからね。

母　あれも病氣さね。順一も病氣なのだ。皆んな病氣にかゝつてゐるんだよ。

入口の戸が、カタ／＼動いたかと思ふと、誰かがドン／＼叩く。

母　どなた？

嗄れた聲で外から「あけて下さい。」といふ。

みね、立つて行つて戸をあける。

みね　あら、やつぱり兄さんだわ。

母（びつくりして）　え？　順一が？

みね　どうして今頃兄さん？

順一靴を脱いで、洋服のズボンの裾にかゝつてゐる雪をはたき落して、部屋の中へ入つて來る。

順一（坐つてお辭儀をしながら）暫くでした、お母さん、別にお變りも御座いませんか。

母（聲をひそめて）お前逃げて來たのかい？

順一　いゝえ。逃げて來たんぢやありませんよ。

母　また、どうして監獄を出て來たんだい？

順一　監獄つて、未決監へ入つてゐたんですからね。出られるやうになつて出て來たんですよ。

母（うれしさうに）無罪になつたのかい？

順一　いゝえ、無罪ぢやないんです。

母（がつかりして）それではやつぱり罪になつたのかい。どうして出て來られた。もう、つとめがすんだのかい？

順一　まだですよ。漸く地方裁判所の判決が下つたところですからね。

母　判決はどうだつたい？

順一　懲役六ケ月ですね。

母　それはいつつとめるのかね？

順一　すぐ控訴しておきましたから、ま、次の裁判の樣子を見て、その上のことですからまだ先になりますね。

母　今日は何か用事があつて、こつちへ來たのかい？

順一　友人が盡力してくれて保釋になりましたから、東京へ行く途中なんです。急に家へ寄つて見たくなつたのでね、汽車を下りて雪の中を、わざ／＼やつて來たやうな譯ですよ。

みね（順一の傍に坐つて、一心にその顏に見入つてゐたが）兄さんも隨分變つたわね。

順一　さうか。お前も隨分大きくなつたね。よく太つて健康さうだな。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

みね　兄さんの顔色は隨分惡いわね。

順一　そりや三月も刑務所に收監されてゐたからさ。

母　お前はまた、どうして監獄へ入るやうなことをしてくれたんだね。（こらへてゐたのが、一時に破れて、急にしやくり上げる。）

順一（當惑して）お母さん、お母さん。どうか氣を落ち付けて下さい。

母　氣を落ち付けろつて、どうして落ち付くものか。お前一人を頼りにしてゐたのに。それを監獄へなんか行くやうなことをするなんて。

順一　お母さんには、まだ事情がお分りにならないんですね。

母　私は世間の人の物笑ひになつて、肩身を狹く暮してゐますよ。みねだつて、折角のお嫁の口が駄目になつてしまつたぢやないか。皆お前の爲めに、苦しんでゐるんだよ。

順一　おみねのことは全く知らなかつだ。前から話のあつたといふ、あの小池とかいふ男のことでせう。いつかおみねからの手紙に、ちよいとそんなことが書いてあつたやうだつたな。

みね　いゝえ、私のことは何でもないのよ。却つてよかつたと、今では思つてゐる位だわ。

順一　何をしてゐるんだ、その小池つて男は？

みね　小學校の先生をしてゐるんですわ。

順一　そいつァ無理もないな。だが、そんな男は、どうせ頼りになる男ぢやないから、結婚しないうちで仕合せだつたかもしれない。小學校の先生なんて、皆臆病な卑屈なものさ。

みね　さうなのね。兄さんの目は、どうしてそんなにキラ〳〵と美しく光るやうになつたんでせう。

順一　己の目か。ハ、、、、己のうちにもだん〳〵確乎たる信念が湧いて來たからさ。

みね　兄さんは顔の色こそ惡いけれど、元氣さうね。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

順一　あ、元氣だよ。
みね　少しも心配さうなところが見えないわ。
順一　何も心配することアないからね。
母　監獄へ入るやうなことをして、よく平氣でゐられるものだね。
順一　何も悪いことをしたのぢやないから、平氣でゐられますよ。
母　悪いことをしたのぢやないつて。悪いことをしない者を、いくら何でも監獄へ入れるかね。
順一　そりや現代の政府の立場から見れば、悪いことかもしれませんが、自分自身では少しも悪いことをしたとは思つてゐませんからね。
母　親のことを少しでも思つたら、そんなことは出來ない筈だがね。
順一　そりやお母さんにはお氣の毒に思つてゐますよ。どうしたら私の心持が分つていただけますかね。
母　一人の親にこんなに心配をかけるものではないよ。
みね　兄さん、みんな話して下さいよ、一體どうなさつたの？
順一　あ、話すとも。何も恥しいやうなことは一つもした覺えはないのだからね。
みね　不穩文書をどうとかしたつて新聞には出てゐましたが、どんなことをお書きになつたの？
順一　うん、去年の十月のある日曜日のことだがね、已達二三人の同志が、兵隊の歸るのを待ちうけて、パンフレットだね、小さい本だよ、それをくばつたのさ。
みね　それが悪かつたの？
順一　さうさ。
みね　どんなことが、そのパンフレットに書いてあつたの？
順一　つまり社會主義の宣傳なんだね。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

みね　社會主義は何故惡いんでせう。
順一　それは現代の社會の下積みになつて、貧乏して苦しみ惱んでゐる人達に、もつと人間らしい幸福な自由な生活を與へようとするからさ。
みね（勢ひ込んで）　それが何故惡いんですの。いゝことぢやありませんか。立派なことぢやありませんか。
順一　ところが、現代の社會で幸福な贅澤な、つまりいゝくらしをしてゐる連中だね、たとへば地主とか金持とか社會上のいゝ地位にありついてゐる人達などだね、この連中は多くの一般の人々がよいくらしをするやうになるのを少しも望んでゐないんだよ。そんな風になるには、自分達にとつて有利であつた今迄の生活が、根底からひつくりかへされてしまはなくつてはならないにとをよく知つてゐるからね。そんな風に少しでも社會がなづて行くのを、きやつ等が極力押しとどめようとするのもきやつ等としては當然のことさ。きやつ等は自分達さへいゝくらしをして行かれさへすればそれでいゝんだからね。
みね　だつて、それぢやあんまりひどいわ。
順一　ひどいつて實際さうなんだから仕方がないさ。
みね　ぢや、兄さんは兎に角自分で正しいと思ふことをなさつたんですね。
順一　さうだとも。己は正しいと思ふことをしたのだ。それで監獄へ入れられやうと、どうならうと己はかまはない。
母　そりやお前が正しいと思ふことをしてゐるのかもしれないけれど、監獄へ入るやうなことをするのは無茶つてものだね。そんなことしたつて誰にもほめられやしない。みんなにどんな惡いことをしたのかと思はれるばかりぢやないか。この邊でも隨分いろんなとり沙汰をしてゐるんだよ。親の身にもなつて御覽、そのつらいことつたら。
順一　世間の噂なんか、どうだつてかまやしませんよ。
母　お前は構はないつて、私は構ふがね。
みね　お母さん、兄さんはやつぱり正しいことをなすつてゐらつしやるんだから、世間の人が何と言はうと構はないぢ

やありませんか。

母　私はまた世間一般の人が、よく言はないことは、やつぱり悪いことだと思ふがね。

みね　だつて、お母さん、それは世間の人の方が分らないんだから仕方がないわ。

母　順一ひとりの力で、世の中がどうなるものでもあるまいしさ。何もすき好んで監獄へ入るやうな眞似をしなくともよささうなもんだ。それよりや立派にくらして行ける道でも考へた方が、上分別だがね。

順一　お母さんに理解していただけないつてことは、本當につらいですよ。

母　私はこれ迄隨分苦勞をして來たんだからね。もう苦勞はあき／＼した。それだのにお前がそんな風だと、一層苦勞を増すことになるぢやないか。お前が監獄へ入つてゐて、私が安らかに夜だつて眠られると思ふか。世間の噂さも氣にもかけもするが、それよりもお前の身の上を案じるからだよ。

順一　それはよく分つてゐます。ですがね、お母さん、私は私の信じた道を進みたいんです。それがどんなに茨の道であるにしても、ちつとも厭はないんですからね。どうか私の信じた道を行かせて下さい。たとへ監獄へ入れられやうと、そんなこと何とも思つてゐないんですから。

母　若い時は血氣にまかせて、そんなことをして見たいもんだよ。だけれど、いまにみんな馬鹿々々しいてことが分りますよ。

順一　いゝえ。そんなこと決してありません。私は何處迄も――

母　親のいふことをきかないで、勝手のことしようといふなら、もうそれ迄だがね。

順一（立ち上りながら）お母さんだつて、いつか私の心のお分りになるときもあるでせう。

母　お前はまだ若いから、そんな向ふ見ずのことをするんだよ。私はお前の爲めを思つていつてゐるのだからね。つまらないことをやつて騷いでゐないで、眞面目に働いて立派にくらせる道でも考へたらいゝんだ。いゝ氣になつて飛び廻つてゐるうちに、一生を棒に振つてしまふやうなことになるよ。

順一　お母さんは立派にくらせと仰るけれど、いくら働いたつて今の世の中で立派になんかくらせるものですか——泥棒見たやうなことをしない限りはね。私はもう立派になんかくらしたかァありません。立身出世の夢なんか、もうとつくに棄てゝしまひましたよ。

母　これ迄言つても、お前がどうしてもさう言ひ張るのなら、ま、好きなやうにしなさい。私も、もう諦めますよ。

順一　お母さん、こんな風でお別れするのは、心殘りがしてならないのですけれど、私は次の汽車で東京へ行かなければなりませんから、これでおいとまいたします。

みね　あら、もう兄さん行くの。そりやひどいわ、あんまりひどいわ。せめて一晩位泊つてゆつくりしてゐらつしやつたらいゝぢやありませんか。私はまたしばらくは家にゐて、からだでも休めてから行かれることとばかり思つてゐたのに。

母　順一、私はこの頃のやうな寒い夜なんか、お前はどうしてゐるだらう、さぞ寒くて困つてゐることだらうなどと思つて、幾晩もおち〳〵と眠らなかつたんだよ。

順一　お母さん、もう何もおつしやらないで下さい。今の場合私は自分の心を弱くしたくありませんから。

みね　兄さん、ひどい雪なのに、どうしても立つんですか。

順一　雪なんか何でもありやしない。東京には己を待つてゐる同志もゐるし、しなくてはならない仕事も澤山あるんだからね。早く行きたいよ。

みね（立ち上つて兄のそばに行き）兄さん、私は何處迄も兄さんの片腕となつて働いて見たいと思ふの。だから、私も一緒に連れて行つて下さいな。

母　みね、お前までも、私を見すてゝしまふつもりかね。ふん、どいつもこいつもみんな——

みね　お母さん、私はどうしても兄さんと——

順一　おい、おみね、お前の好意は有りがたいが、お前にはどうしてもお母さんを賴まなくちやならないよ。

みね　私お母さんのところへ、お金を送るわ。

順一　今迄お前は何をして居つたんだ？

みね　私は製糸工場へ通つてゐたんだわ。

順一　やつぱりお前にはこゝでそのまゝ働いてゐてもらひたいよ。さうしてお母さんの面倒を見てあげてくれ。

みね　だつて、私東京へ行つたつて働くわ。そしてお母さんのところへお金を送るやうにしたらいゝでせう。

順一　いけない〳〵。それではあんまりお母さんが、お氣の毒だ。お前はこゝにとどまつてゐてくれ、頼む。

母　お前達がみんなさうして私のことなんか、てんで考へないで、自分勝手のことをするなら、どうでもいゝやうにするがいゝ。

みね　ぢや、私今迄通りにやつて行くわ。

順一　さうしてくれ。（時計を出して見る）あ、もう時間がない。では、お母さん御機嫌よう。おみねお母さんを頼むよ。

みね　よくつてよ。では兄さんしつかりやつて下さいよ。

順一　（戸を開けて外へ出ながら）あ、よし〳〵。己のこたア心配するな。

順一ギシ〳〵と雪を力強く踏みしめて去つて行く。

——幕——

前號目次

頭腦勞働者と文筆勞働者……………山川均

安倍能成の平和論……山口小靜

母への書…………三宅信

暴力…………前田川廣一郎

烈片…………藤森成吉

□批評——世界欄——聳人欄……

酒(小說)…………金子洋文

無名の英雄(小說)……若松木知火

編輯後記

この號から多少編輯の體裁を變へて見た。あまり型が定つてしまつたから、一度すつかり崩す方がいいと思つたからだ。出來上つたところは何だかゴタゴタしてゐるが、その中にまた新たな型が出來るだらう。

「赤列車」へはだいぶ澤山の人から乘つて貰つた。こゝで改めて感謝する。この欄も前號から廢止した。世界欄と聳人欄はいつまでもつづけるつもりだ。來月號あたりから靑年運動欄を設けたいと思ふ。こゝでは社の靑年部が活躍してくれる筈だ。

本號では題言の代りに三人の革命評論家の顏を拜借した。これからいいものがあつたら寫眞も載せ度いと思ふ。同人柳瀨は每月漫畫をのせると言つてゐる。

「種蒔く人」の運動は文藝運動だけではない。それは最初からの「約束」だ。種はあらゆる沃土へ蒔かれねばならない。これからますますその面目を發揮するつもりだ。(A)

定價　一部三拾錢◇半年前金一圓八拾錢◇一年前金三圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料內國壹錢外國四錢

廣告　廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ

宛先　寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御用向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛

締切　每月五日

大正十二年六月廿八日印刷納本
大正十二年七月一日發行

東京府西巢鴨町二千百十七番地
發行人編輯人
印刷人　今野賢三

東京市神田區佐久間町三ノ十九番地
印刷所　三洋印刷株式會社

東京府西巢鴨町二千百十七番地
發行所　種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌　東京堂　上田屋　北隆館　至誠堂　東海堂

逆叛は一ツの良心である
叛逆のないこころに何の詩があるか

鎖

第二號

過去をのろへ！
未來は我等のものだ！

生活……………………村松正俊
貴婦人君……………………重廣虎雄
馬車の中で……………………鶴巻盛一
手を差延べやう……………………陀田勘助
奪はれた男……………………ジヨルデユ・デユアメル　山根政義
作業機械……………………細井和喜藏
批評及雜記……………………虎雄、政義、淳三

定價十錢
東京市芝區三田四國町二ノ一一九
鎖人社
送料二錢

中西伊之助　前田河廣一郎
尾崎士郎　藤井眞澄　青野季吉　編

◇ 四六版並製　七一〇頁　定價二圓五十錢　送料十二錢 ◇ 新刊

藝術戰線

本書は、老革命家堺利彦氏へ贈るために新興藝術家廿九人の作を集めた。堺氏のなみ／＼ならぬ勞を多とする者は、獨り吾々にばかりでは無い筈である。全無産者諸君も等しくそうであると信ずる。諸君よ！　吾々と共に、折柄獄中の氏を慰め勵まして貰ひ度いものだ。

執筆者（廿九人順序不同）

秋田雨雀　宮島資夫　新島榮治
有島武郎　平林初之輔　細井和喜藏
小川未明　新居格　吉田金重
前田河廣一郎　小牧近江　新井紀一
中西伊之助　金子洋文　藤井眞澄
內藤辰雄　今野賢三　佐野袈裟美
藤森成吉　佐々木孝丸　小泉鐵
加藤一夫　江口渙　長谷川如是閑
青野季吉　尾崎士郎　麻生久
松本淳三　鄭然圭

◇ 東京神田表神保町一〇　自然社　振替口座東京三五五一〇番 ◇

◎商品券は東京、大阪、大連京城の三越の何品とでも御取替が自由ですから中元御贈答品として非常に重寶されてます

◎旅行用具は三越の品に限ります海や山へ御旅行に必要な品が悉く三越に取揃へてあります、御旅行案内書や地圖もあります、品が丈夫で低廉な品が澤山到着しました

中元御贈答品は三越の品

何人もお喜びになるのは三越の品で御座います、中元御贈答用品として本年はお恰好品を澤山取揃へて御座います

従來月二回（十日廿五日）を定休日と定めて居りましたが御華客様の御不便不尠に鑑み爾今定休日を廢する事に致しました

三越呉服店

◆◆ 東京駿河町 ◆◆

ゾラ原作　飯田旗軒譯

全譯　勞働

最新刊

四六版千頁總クロース天金極上製裝幀優雅三色版美麗口繪入

定價四圓八十錢　送料十八錢

ゾラの大傑作、一千頁の長篇「勞働」の全譯が出た　燒きつくやうな絶間ない接吻、息づまるやうな爛れた肉、それらのものに包まれながら、社會改造の理想に燃える美靑年が遂にユートピアを實現するに至る情景を描いて、ゾラの特風を最もよく發揮したもの、彼の四福音書中の代表作である。ゾラの藝術に親しむ人の見逃すべからざる名篇。

ゾラ原作　飯田旗軒譯

「巴里」第十三版

―定價五圓五十錢・送料十八錢―

ゾラ原作　飯田旗軒譯

「金」第六版

―定價四圓二十錢・送料十八錢―

東京神田今川小路
大阪市三休橋南詰

大鐙閣

振替　東京三三六一八
　　　大阪二七一五五

種蒔く人　第三年第五巻第一號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）大正十二年六月廿八日印刷納本　大正十二年七月一日發行

本號定價三十錢

種蒔く人

第三年第五巻第一號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）大正十二年六月廿八日印刷納本 大正十二年七月一日發行

【本號 定價三十錢】

三色版美麗口繪入

料 十八錢

—定價四圓二十錢・送料十八錢—

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大正十年十二月十日（第三種郵便物認可）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA